

# 区画整理記念施設いってきませんか？

## 区民の財産（土地と資金）使われず22年

「区民の財産が長い間使えないのは問題や」「なぜ停滞しているのか」。戦災から港区を復興させ、水害に強い街の土台を造った「港地区復興土地区画整理事業」（一九四八―一九九二）の足跡を記念施設として残そうという計画が遅々として進まず、区民から疑問の声が上がっています。この計画は、同事業の中で生み出された①弁天町駅前土地六三〇坪②資金三六億円―を使って何らかの施設を建設しようというつもりですが、協議開始から二年、未だに具体化されていないのです。そんな中で初の「構想調査」が実施され、「今度こそ」と期待の声も聞かれます。見通しはあるのか。昨年八月<sup>（中略）</sup>に続き、この間の歴史を振り返ると共に、市の担当部署に訊きました。

## 初の構想調査に期待も、求められる市の奮起と区民の関心

一九四八年から半世紀近い歳月をかけ、区の九割近い土地を全面<sup>（中略）</sup>に盛り・高<sup>（中略）</sup>上げる<sup>（中略）</sup>

によって、戦災で焼失した市街地を整備した「港地区復興土地区画整理事業」。この世界にも類を

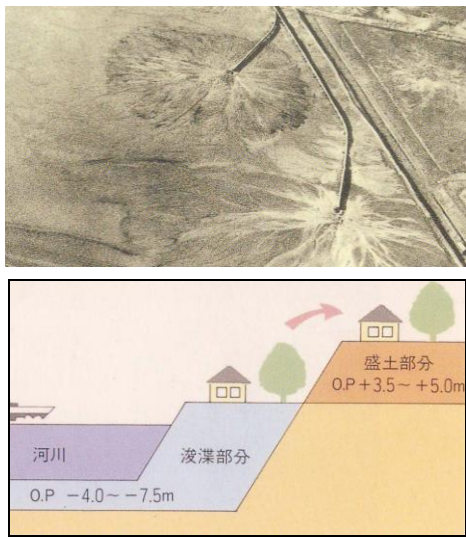
見ない大事業の様子を克明に知る人は年を追って少なくなっています。それだけに、この港区

が誇るまちづくりの歴史を記念碑的建造物として次世代に残すことは、区民にとって大に意義あることとされています。

### ◆壮大かつ複雑な事業

では、この「港地区復興土地区画整理事業」とは何なるものだったのでしょうか。

### 目的 港区はもともと低地帯であった上に、



→全面二つの盛土が区の大半で実施され、世界史上でも画期的とされる「港地区復興土地区画整理事業」。写真上はサンドポンプから噴き出される土砂（一九五四年頃）、下図は全面盛土方式のイメージ。いずれも港区役所新庁舎竣工記念誌（一九九八年発行）から

工場による地下水くみ上げなどで地盤沈下が進み、戦前から台風や高潮による被害が絶えませんでした。そこで、第二次世界大戦で破壊された市街地の復興計画を大阪市が策定する際、港区では①区画整理②高潮対策③大阪港の内港化—といふ三つの目的を同時に追求するようになったのです。

**規模** 同事業では、港区の約九割に当たる約六九〇haの広大な土地を全面「仮も盛土・高上げ」しました。期間は一九四八年認可から一九九二年終息まで四十四年間。事業に伴う建物の移転は七三九戸。完成道路延長約一一〇km。全国はもとよりの世界的に見ても、これほど大規模な区画整理事業はありませんでした。

**特徴** 最大の特徴は、全面盛土方式。①高潮対策に最も有効②戦災直後で移転を要する建物が少ない③大阪港内港化で安治川の底を浚（うみ）えた土砂を利用できる—などの理由で採用されました。実行段階では当然、換地（土地の交換・分合）や建物の移転、それに伴う利害調整の必要などが生じました。これら複雑極まる問題を協議する場として一九五八年、選挙で選ばれた

「港地区復興土地区画整理事業」の工事風景。

写真上は八幡屋付近の市電軌道の嵩上げの様子（一九五七年頃）。山本安孝氏提供。同下は盛土後の路面高に合わせた下水道マンホールの築造風景。港区役所新庁舎竣工記念誌から



地権者（土地所有者と借地権者）代表十一人による「港地区土地区画整理審議会」が設けられました。同審議会は十四回にのぼる計画変更にも対応しながら、事業の円滑な進行に力を注ぎました。この中で、土地所有者が「港区の将来のために」と自分の土地を公共施設などに提供した土地は四九割（四九割）と言われており、港区復興にかける当時の区民の心意気を測るバロメーター

メーターとされています。

### ◆一九九一年から協議

文字通りの区民の総力で完成した同事業。その記念施設を造ろうという計画は、同事業が終わった一九九一年に始まりました。「次世代へまちづくりの歴史を継承する」と意義づけられ、そのため、同事業の中で確保された（つまり、換地などの過程で「区民の共有財産」とされた）①弁天駅前前土地約八百三十坪（約二〇八五平方メートル、磯路一・七）②資金約二十八億円を活用するといったものでした。そして、区画整理事業の中心を担ってきた「港地区土地区画整理審議会」（以下「審議会」）がそのまま「港地区土地区画整理協議会」（以下「協議会」）へと移行し、実施主体である大阪市に協力する（意見を述べる）形で検討を進めることになりました。

### ◆コンパへ不調も

その後、具体化への議論は進み、十年後の二〇〇二年二月には建設事業者を決めるコンパ（提案競技）も始まりました。が、結果、提案はなく、コンパは不調に終わりました。

その後、コンパへ不調の原因を検証し、新たな

コンパに向けての準備として、二〇〇六年七月には事業主体の構成や施設の内容、運営方法などについて専門家の提案を公募。二カ月間に九社から十一件の提案があり、それらを巡って議論が交わされました。



→「港地区復興土地区画整理事業記念施設の建設が予定されている弁天駅前前土地（磯路一・七）。二二年間も空き地状態が続いている

が、二〇〇九年十二月までに何度か委員会が持たれ、その間に新たな提案が出されるなどしたもの、やはり具体化には至りませんでした。またこの間に協議委員は当初の二十一名が死去や転出で十三名になりました。

### ◆演劇ホール以外の検討も

その後、同協議会は二〇一〇年七月から二〇一三年四月までに計七回、各回七～九名の委員の出席、全回に港区長のオブザーバー出席も得て開かれました。その中では「早期整備を第一に、それまで検討の軸に据えていた演劇ホールにこだわらず、時代に即した、それ以外の施設の可能性も検討しよう」と舵が切れ、①区画整理事業の記念・コミュニケーション②市民協働に資する③港区民に役立つ利用しやすい施設に④環境面や経済的リスクや防災面にも配慮などをポイントに検討が進められました。

### ◆調査予算に期待も…

さらに昨年（二〇二二年）四月の会合では構想検討の調査費として六百万円が計上されたことが市から報告され、それを活用して調査を実施し、「今年度中に構想案をまとめる」とのこと



確認がなされました。

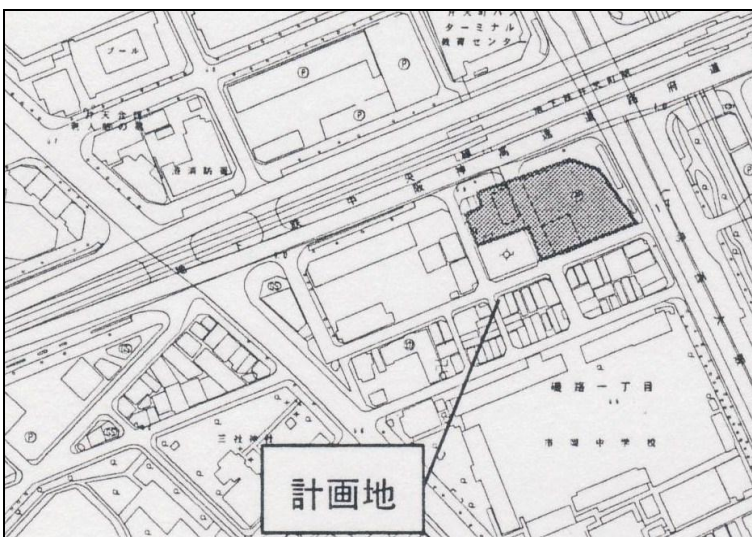
「これを知った区民から「こんどこそ」との期待が高まる中、市の担当部署である都市整備局は同年十月、㈱建設技術研究所（東京都に本社がある建設コンサルタント企業）と五一四万七一〇〇円（税込）で契約を結び、調査を委託しました。しかし「昨年度中の構想案示」には至らず、この六月三日によつてく調査内容が協議会に報告された訳です。

### ◆区民ニーズ 市場ニーズなど調査

報告された内容は、弁天町駅前記念施設を建設する際の「区民ニーズ」「市場ニーズ」などの調査結果をまとめたもので、市の担当による、例えば次のような内容がありました。

- ・区民モニターからの回答では「防災」「憩い」「医療」「店舗」などのニーズが高かった。
- ・分譲マンション業者は単身やファミリー向けの単体での開発には興味を示していた。
- ・資金の使い途については、建設費だけでなく、その後の運営費や解体費まで含めた「ライフサイクルコスト」といふ考え方が必要だ。
- ・仮に区民センターのような施設を建設する

←「港地区復興土地区画整理事業」の記念施設（弁天町駅前活性化施設）の位置図（上が北）



場、他都市の例では、建設費は八・九億円、修繕・運営費は年間七〇七〇万円、解体費は八八〇〇万円などの数字が出ている。

・予定地（弁天町駅前の隣接地や隣接道路まで含めて建設する場合）には、変電所の地下ケー

ブル移設などさらに十億円が必要となる。

これに対して委員からは「ライフサイクルコスト」といふ考え方の必要性が改めて分かった「などの感想・意見が出たそうです。

### ◆期待できる状況もあるが…

こうして結果的に、区画整理事業で生み出された土地と金は活用されないまま二十一年が過ぎたこととなります。そこで、こうした経過と今後の展望について、市の担当部署である「都市整備局企画部拠点開発事業担当」の平原課長に訊きました（昨年八月と重複する内容あり）。

①港区と同様の計画に取り組んだ大正区では既に一九九九年にスポーツ・文化施設が完成し、市区民に利用されていますが…

区により事情は異なります。港区ではこれまで演劇ホールを建設するといったことを目標として検討して参りましたが、社会情勢等の大きな変化などが実現に至らなかった理由になるのではと考えます。

②大阪市の人員削減の中で担当部署の人数が減られ、多忙で手が回らないといったことも停滞の原因になっているのではありませんか？

大阪市ではいづれも業務効率化の中で人員削減を遂行しており、手が余っているという状態ではありませんが、この業務にかかる人員数は過去に比べ大きく変わっています。さらに、人員の多寡<sup>たか</sup>に関わりなく、この事業は遂行していかなければならないと思っています。

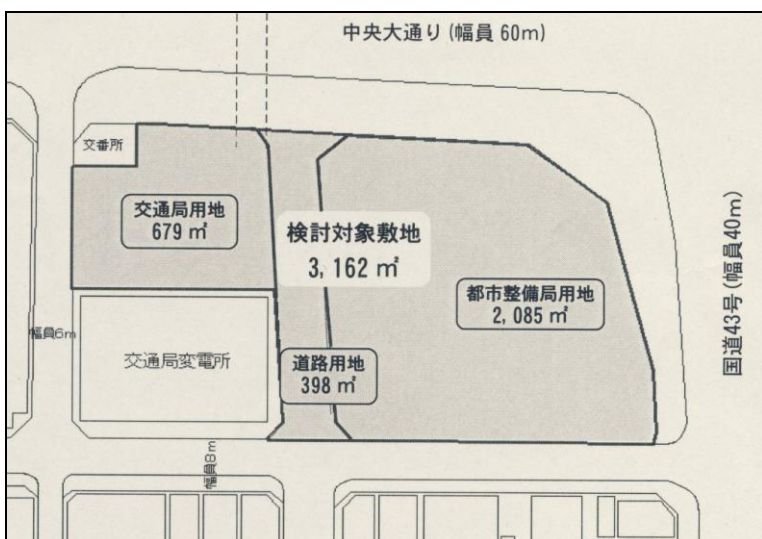
◎土地ハニ〇坪と資金三六億円は使える状態にあるのですか？ 財政難の市が何かに流用しているのではないかという声も聴きます

土地は「大阪市の用地」として登記されており、資金については「大阪市財政調整基金（一）二二億円＝平成 二十四年度決算見込み」の一部として積み立てられています。

④停滞の原因を協議会の在り方、例えば「区員にも入れ替えや補充がない」などに求める区民もいますか？

協議会の皆さんは、「港地区土地区画整理協議会」委員の時代から市に対して意見を頂いてきた、当時の事を一番よく存じの方々です。また、さらに二十年以上の打ち合わせ経緯も踏まえ、市として施設案を取りまとめる際に、まず最初に意見を頂く必要があると考えており、実

際 厳しい意見も含めて色々な意見を頂いています。ただし、事業の実施主体は大阪市であり、意見を頂いた上で、例えば「ソ」への実施等を市として判断し、事業化を検討してきました。協議会の皆さんやその協議の在り方に原因があつ



→「港地区復興土地区画整理事業」の記念施設（弁天町駅前活性化施設）の敷地図（右上が北）

たというには決まっています。

◎では、その協議会が法的・条例的に位置付けられていないのはなぜでしょうか。「市に協力して意見を述べる」といつ中途半端な位置付けそれが、結局は、区民の声よりも市の事情が優先され、停滞を余儀なくされてきたのではないかと指摘する区民の間にはあります

市としては緩やかな位置付けの方が良いと考えています。なぜなら、協議会の位置付けなどを堅固なものにすると、区民の声を集約する機会を逸するということになりかねず、やはり言うたように「審議会」時代からの歴史を踏まえて区民の要望を市に伝えて頂く窓口あるいはインターとしての役割を十分に果たして頂けなくなるからです。

◎では停滞の原因をどうお考えですか？

様々な要因があるのではと考えられます。バブル時代に検討が始まり、演劇ホール建設を目標に長く議論がされてきましたが、経済状況の変化により、箱物の建設は採算面で難しくなってきたこともその一つです。

⑦今後の見通しはいつくらいですか？

昨年度から構想検討調査に入り、その結果も報告されました。これを材料に、何としても今年度中に構想案を策定して参りたいと考えています。

◎期待しています。が、そのためにも今後、広く一般区民や報道機関と、協議会の会合も含めて進捗状況を公開していくことが必要だと思いますが――

構想案ができれば所定の手続きを踏まえ、公開していくようになります。その際、区民の意見をこのように把握するかなどは今後、港区役所と相談して参りたいと考えています。

◎その際、構想の骨格が決まっただけではなく、骨格段階と、区民の声を反映させるべく、まだという声もあつますが――

仮にこうして、ポイントが分散・発散してしまつて、意見集約でなくなる恐れも多分出ています。むしろ市としては、港区の歴史的な区画整理事業を後世に伝えるというところに着眼しながら骨格構想を示し、ポイントを絞った市民説明をお願ひしたいと考えております。

## ◇

以上、市の担当部署の話では、この計画の停滞の主要な原因は経済情勢などの「外因」であり、それを踏まえて現在は「構想検討調査」の実施や公募区長による区役所の姿勢の変化など、計画具体化へ有利な状況が生まれていると考えています。

それに対して港区民は「今度は」との期待を抱へ一方、一二年間もの停滞、特に「昨年度中に構想案を示す」との確認が反故にされたことにより、厳しい目を向け始めています。確かに、このままの状況が続けば、何より、苦労した先人に申し訳が立たず、歴史的な港区の区画整理事業の意義と誇りを次世代へ継承することもおぼつかないのではないでしょうか。そこでこの問題について区民が関心を持つべき、また考えるべきと思われるポイントを、昨年八月頃に続き、次に示しておきます。

**時間** なぜこんなに時間がかかっているのか、いつできるのか（実現に向けて明確な期限や工程を設定すべきではないか）。

**内容** 何を目的にどんな物を作るのか（マン

ションや文化施設の論議もいろいろありますが、まずは区の歴史的事業を後世に伝える施設づくりを主眼にすべきではないか）。

**運営** 建設したあと誰が運営するのか（市か、区か、区民か、団体か、企業か）。建設費と運営費のバランスをどうするのか（全部建設費につき込むのか、運営費をいくら残しておくのか）。運営の中で得られる収益（ホール使用料、入場料など）をどう扱うのか。

**協議** いままでどんなふうに話しかけられてきたか（実施主体である大阪市の主導性は発揮されてきたか、協議会委員の法的位置づけや権限を明確にすべきではなかったか、会合の頻度や方法は適切だったか）。これからどんな形で話し合ふべきか（協議会委員の補充や刷新は必要か、区役所はどの程度関わるべきか、議論内容をどの程度公開すべきか、構想の骨格段階から区民の声を採り入れるべきではないか）。

――以上をポイントにした真摯で集中した市民協働の論議、そしてこの問題に対する区民の関心の高まりが、これまでも増進して求められます。



# 補助金は減っていない

「地活協」で区役所から説明



→「補助金が減っている」との声が出た港区の地活協(写真は弁天の運営委)。「実質的には減らされていない」と港区役所から説明があった

「去年より補助金は減っている」という声は港区の各地域活動協議会(地活協)運営委員会が出たことを本紙前号(一頁)で報じたところ、港区役所の担当課(協働まちづくり支援課)より「実質的には減らされていないのです」との説明がありましたので、それを次に掲載します。



区民の皆様には、口ごもるから港区政に「理解」とい協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「港新聞」前号(一)「地域活動協議会の運営委員会の取材記事が掲載されており、その中で「去年より補助金は減っている」という意見がありました。この点について、紙面をお借りして説明させていただきます。

平成二六年度の地域活動協議会に対する補助金予算は、港区全体で二九三万円で、一五年度の三二五〇万円と比較して約三七万円の減となっていますが、その要因は次のとおりです。

①平成二五年度に限った運営費補助金の加算分の減(約二二万円の減)

平成二四年度末までに協議会を形成した地域には、一五年度に限り活動費補助金の五割相当

額を運営費補助金に加算するという制度(地活協形成促進のためのインセンティブ)動機づけ制度)がありましたが一六年度はその適用がありませんので、その分が減額となっています。

②青少年指導員の活動に対する補助金の交付金化(約二二九万円の減)

平成二六年度から、市長が委嘱する青少年指導員の活動経費については区役所から直接交付することとなり、地域活動協議会の補助金から青少年指導員への交付金に変更しましたので、その分が減額となっています。

平成二六年度の区役所の予算編成にあたっては、全体事業経費について、いわゆるシーリング(上限額)として、平成二五年度予算の二割相当額を減額することとなりましたが、港区では厳しい財政状況の中で、地域活動協議会の補助金については、右記の要因を除き、実質的に二五年度予算額を確保しました。

区役所はこれからもまちづくりセンター支部と連携し、地活協の取り組みがより活発なものとなるよう様々な面からサポートして参りたいと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

# 叫びたい！

今月の提言者

たかはし けんじ

高橋 健治さん（60歳、南市岡）



## 機械が人殺す現代戦争

平和憲法堅持、今こそ！

私たちの世代でロボットといえば「鉄腕アトム」がすぐ思い浮かびますが、原作者・手塚治虫氏によると「ロボットは人間の良き友人で共に幸福と平和を築く存在」と考えられていました。

### ◆「進化」するロボット兵器

日本では「足歩行や会話型のロボットなどが注目されていますが、米国などはすでに無人の攻撃用の飛行機などを開発し、「テロとの戦い」と称して、派兵が困難な山岳地帯や民間人居住地域での「ピンポイント攻撃」を可能にしました。必然的に「誤爆」で数多くの市民が犠牲になり（昨年九月で四〇〇人以上が確認）、今後も続くことが確実です。パキスタンなどから二万キ以上も離れた米国本土でコンピュータの画面で遠隔操作し、「テロリスト」と判断すれば爆撃します。音も匂いも感じることなくゲーム感覚で人殺しをするのです。

ある退役した兵士は「十二時間は戦場で。後は恋人とデートしたり、ハンバーガーを食べたり」という奇妙な生活で、「人殺し」には全く無感覚でしたが、苦い記憶もありました。三人のテロリストを攻撃した瞬間、小さな人影子供が続いたのです。上官は「あれは大だ」と言いましたが、今でも悶々としています。退役に際し、「君は五年の任務で千八百人以上殺した」と告げられました。米国本国の兵士が死ぬことが

なければ、平気で無人機で殺傷するという人権意識（あるいは人間の命の捉え方）の不均衡があります。水道工事をしていても「路肩爆弾を敷設している」と判断されれば爆撃されるのです。道路脇の農作業もそうです。

そしてロボット兵器はさらに「進化」し、人間の判断ではなくコンピュータが「敵」と判断して攻撃をするといつのです。イスラエルはすでに「国境警備」に配備しています。

いわゆる「自律型ロボット」が、つまり機械が「人を殺す」ことは絶対に認められません。倫理問題を含めて、国際法上での判断や開発の凍結が国際的にも論議されています。残念ですが、日本ではまだまだ関心が薄いのが現実です。

### ◆憲法根幹の変更は許されない

「解釈改憲」による「集団的自衛権の行使」容認を巡って風雲急を告げる情勢ですが、国際紛争が多発する戦後世界で日本の平和を守り続けてきた憲法の根幹を、一内閣の一閣議で変更することは絶対に許されません。毎日新聞の世論調査でも五八％が「反対」、三八％が「説明不足」と回答しています。連立与党の公明党にも



「執行部批判」が噴出しています。

今年の四月、これもまた閣議決定で「武器輸出三原則」が緩和され、その結果、二カ月もたたない六月にパリの「兵器の国際見本市」には日本から早々と「死の商人」十三社が出展しています。

安倍総理がパネルを使って国民の劣情をそとる「邦人保護」という理屈は、かつての侵略戦争や戦後の海外派兵の口実となったことは歴史が証明しています。一度決定されれば歯止めなく拡大解釈されることは必至です。

十一年前に大義も根拠もない戦争で米国の軍勢力で「解放」されたはずのイラクはどうでしょう。混沌とする現状は既に三百名単位の米軍事顧問派遣に至りました。

### ◆今夏も「大空襲の体験を語る集い」

一つした歴史に学び、私たちNPOみなとは「戦争反対」「平和憲法堅持」を掲げて活動を強化して参ります。今夏で十四回を迎えた「大空襲の体験を語る集い」(下段)あれこれガイド」に開催概要も、そつした私たちの平和運動の一二を。

今、戦地での戦闘や空襲を実際に体験された高齢者が次々とお亡くなりになる中、広島・長崎での原爆被害、全土にわたる空襲被害の歴史だけでなく、中国や朝鮮での加害の歴史も「負の遺産」として自覚し、そつした「正しい歴史」を次世代へ継承していくことが、先に述べたような情勢の中ますます切実な課題となっています。「継続は力なり」と言います。この取り組みが本当に戦争抑止と平和を願う地域の人たちの皆となり要となるよう、皆様の積極的な参加を心から期待するものです。

(特定非営利活動法人NPOみなと理事)

**働く仲間の相談所**

倒産、解雇、賃金不払い、条件切下げなど何でも  
**無料**

困ってませんか?

港合同 (南市岡3-6-26) ☎6583-4858

**被災地農民を支援します。**  
**反原発の声をあげよう!**

ご協力下さる方はご連絡下さい

**三里塚産直野菜の会**

磯路2-3-9(三社神社そば) TEL.6572-0130

### あれこれガイド

#### ●大空襲の体験を語る集い 戦争の被害と加害

歴史を正しく伝え、憲法九条を守り、地域に平和の力を築くため毎夏開かれる取り組みの十四回目。八月十日(日)十三時から田中機械一(南市岡二・六・二)で。参加費無料。戦地体験者・空襲体験者・疎開体験者などのお話を中心に、平和映画の上映、戦争関連写真・絵画・資料の展示などⅡ写真左下は昨年の模様。戦争体験の語り部募集中。問い合わせは主催のNPOみなと(☎六五八二・四八五八、担当:高橋)まで。



#### ●国保交渉 高齢者の国民健康保険料の引き下げを市に求める交渉。七月十八日(水) 十四

十八時に港区役所五階会議室でⅡ写真右下は昨年の模様。深まる貧困化の中で「食べば払えず、

払えば食えず」といつ庶民の実情を訴えると共に、①保険料の引き下げ②保険料減免制度の拡充③生活困窮世帯への滞納処分中止④窓口負担減免制度の拡充などを、市の窓口である港区役所（窓口サービス課保険年金担当）に求める。参加無料。区内の諸団体から成る「港区国保対策連絡会」が主催。☎六五七二・七七八七。

●「ワークみなと」「東北食品市」 東日本大震災で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所が、宮城県産の材料を使用して、昔ながらの製法で作った体と心にやさしい豆腐・豆乳・青豆豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心両面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から（売り切れ次第終了）▽ワークみなとは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所（夕田一・六・三、☎六五七二・七五二一）。

●「ムチ打ち（首・腰）無料相談会」 交通事故でムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談会。七月二十七日（日）十～十八時に行政書士のむら事務所（築港三・七・一・六〇八）で。一人約一時間。事前予約制（電話かEメールで）。

「いついたら正しいな補償が得られるかをアドバイスします」「事故後、早めの相談が良い結果につながります」（同事務所・野村光恵さん）。Eメール：info@jikkou110-nomura.com、TEL六五七六・六〇七八、FAX六五七六・六〇七九。

●「障害年金もれの心当たりある人は相談を」 障害者手帳を持つ二十歳以上の人のうち、障害年金を受けられるのに請求手続きをしていない人が相当数（身体障害者では〇・四割、二万人程度）にのぼることが厚生労働省の調査で判った（二〇一三年七月）。原因の大半は、「障害者手帳に記載されている等級」と「障害年金の受給要件となる等級」にずれがあるため。このため、例えば、実際には二級の障害厚生年金を受けられる程度の身体障害があるにもかかわらず、身体障害者手帳の等級が「四級」であるため「自分では受けられない」と思い込んでいる場合などは、申請しなければ、いつまでたっても支給されないことになる。心当たりのある人は港区役所保険業務担当（☎六五七六・九九五〇）又は市岡年金事務所（☎六五七二・五〇三二）まで。

●石綿（アスベスト）パンフ 肺がん 中皮腫などの病気や、息切れ、胸の苦しさなどの症状や、それらによる死にが「アスベスト（石綿）によるものだ」と認められたら、色々な給付を受けることができる。このパンフレットは「写真」は、そんな人たちが家族のために、①石綿による病気にはどんなものがあるか②石綿による病気と分かった場合の補償や救済の制度にはどんなものがあるか③その場合の問い合わせ先などを厚生労働省と環境省と独立行政法人環境再生保全機構がまとめたもの。港区で暮らすか働いている人なら港区役所（市岡一・一五・一五）三階の港区保健福祉センターのチラシスタンドに設置してあるものを無料でもらえる。

その病気、その症状は  
アスベスト

## 石綿が原因 かもしれません

ご家族に、肺がんや中皮腫などで亡くなった方はいませんか？

息切れ、胸が苦しいなどの  
症状が出ていませんか？

石綿による疾病と認定された場合、各種給付を受けることができます。

◆お心当たりのある方は、以下の機関にご相談ください。

- お近くの労働基準監督署または都道府県労働局
- 独立行政法人 環境再生保全機構（ERCA）

厚生労働省 環境省 独立行政法人 環境再生保全機構

あ さ や け

「すき家の乱」が世間から喝采を浴びています。港区にもある牛丼チェーン店。低賃金にもかかわらず「ワンオペ」と呼ばれる危険な深夜一人営業をさせられ、血洗いから調理、レジや接客までこなさねばならないことが以前から問題視されていましたが、今年三月に新メニュー「牛すき鍋定食」が登場したことで仕事量が激増し、アルバイトたちの堪忍袋が爆発。連絡を取り合って一斉に退職したため一八四店舗が閉店状態に陥ったのです▼喝采の背景には、労働法制の規制緩和が二〇〇〇年代に入って急速に進み、今や就業人口の四割近くが非正規雇用となつてもともに生きていこうとできない社会になった上に、安倍政府がこれに追い打ちをかけるように、外国人労働者の移入、残業代ゼロ、解雇自由化といった政策を矢継ぎ早に打ち出したことがありました。いわば貧乏人を大量生産する国（ひんがし）の二斉蜂起的な反撃が庶民の共感を呼んだのでした▼それについても感心した

のはバイト青年たちの根性で連携と自己犠牲の精神。経営者のあの手の手の脅しや居直りを物ともせず、「肉の日」五月十九日のツイッターでのストライキ呼びかけを山場に、自らも職を失つことで抗議の意思を示したのでした▼「目には目を」と言いますが、遠慮を知らぬ連中には遠慮のない闘いが必要であることを、身をもつて教えてくれた若者たちに敬礼！

× × × × ×

「♪京都から博多まであなたを追つて」とは「藤圭子さんのヒット曲『京都から博多まで』（一九七二年の一節。愛する男を追つて瀬戸内路を辿る女心を描いた歌詞が鮮烈でしたが、筆者も最近、若い女性に「磯路から田中まで」追いかけられました▼六月下旬の午後、自転車で届け物をした帰り、田中の路上で婦人警官に呼び止められ、自転車登録の確認をされたのです。「おっきい磯路ですわね違った時に」気が取れてる様子だったので…「別に気になんかしてませんけど…」。ちよつとむかつきながら自転車を見せ確認が終わると彼女は「おつてもすみませんでした」と頭を下づきました。仕事への熱意がなせる

業だったのでしょうか、「何もそんな長い距離を追いかけても…」と複雑でした。とはいえ「こちらも地域新聞発行という仕事柄、絶えず周りに目をやつて不審に見えたのかもしれない。そつぎえと別れ際、恐縮する彼女に向けた不服の表情が悔やまれたものでした▼しかし、三日でも、JR大阪駅の高性能カメラ設置計画や港区の成人式での物々しい警備に絡めて指摘したように、こつした監視や警備が強まる背景には「集団的自衛権容認」に代表される最近の政治の動きがあることも見ておかななくてはならないでしょう。つまり「自衛」「安全保障」などの

美辞で国民を分断しつつ、戦争へ、監視社会へと突つ走る政治勢力、そつした動きを利用してアジアの国同士を争わせつつ漁夫の暴利を止む某大国の存在―この巨大な構図に思いを致さない訳にはいかないのです▼そつぎえと「たかが監視、さうぞ監視」。図らずもはいえ、そんな風に社会をきええきええかけを与えてくれた若き婦人警官に、心の内でそつと感謝を捧げました。「ありがと」「あなた、な」「ヤイヤしてんの」。こつちの監視かけこつと敵いこつと。



# 力合わせ平和な日本を

## 大正区で「原爆と戦争展」活況



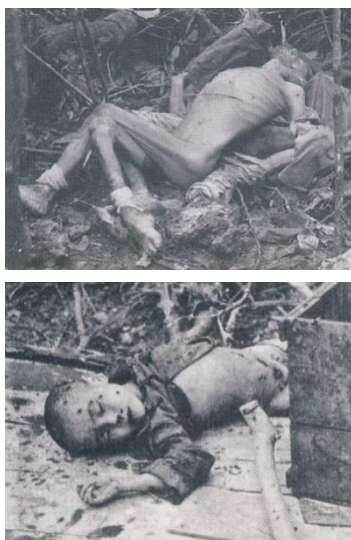
→「平和な未来のために語り継ぐ」と今年も開かれた「大正区 原爆と戦争展」は六月上旬、大正区で（写真は戦争体験を語り合う参加者）

「日本の現状をもたらした第二次大戦と原爆の真実を伝えよう」「平和な未来のために語り継ぐ」と六月六〜八日、大正区「ミニユニティセンター」で「大正区 原爆と戦争展」が開かれまし  
た。大正区原爆被害者の会（草野春夫会長）と大阪原爆展を成功させる会の主催で十三回目。  
二百人余りが来場。①戦後世代の参観が目立つた②再び戦争へ向かう現在の情勢に反応した感想が多かった③被爆者が使命感を持って自らの体験を語った一などの特徴が見られました。

### ◆なぜ三〇万人も殺されたか

パネル展示は内容別に構成。このうち『第二次世界大戦の真実』では、①皆が貧乏になって戦争になっていった②日本は中国人民の抵抗で既に敗北していた③アメリカは日本の攻撃を待ち受け、中国侵略と日本占領を目的に参戦した④日本の支配層は負けると分かったが、わざと死なせるような作戦を続けた⑤米軍は飢餓作戦や無差別爆撃で日本民族皆殺しをやったなど敗戦までの流れが分かるように並べられ、「なぜ三〇二十万人も殺されなければならなかったのか」という日本人の誰もが持つ疑問に真実の

「展示写真から、一九四三年にガダルカナル島で飢死した日本兵①と、一九四五年四月に米軍の無差別爆撃で殺された沖繩の幼児②」



答えを提示しようとの姿勢が感じられました。

### ◆戦後支配のための殺戮

また『都市空襲の記録』では①東京大空襲で十万人が焼き殺された②大阪・神戸・名古屋も地方都市も毎晩のように焼き払われたなどの写真を通じて、また『沖繩戦の真実』では①地形が変わるほどの艦砲射撃②無差別の県民大虐殺などを示す写真を通じて、アメリカが戦後支配のため終戦ぎりぎりまで日本中で大量殺戮を続けた事実が浮き彫りにされていました。

### ◆アメリカによる原爆と原発

さらに『原爆と三三三の詩』では、①炎上

する広島市街②瓦礫の山と化した長崎の街③地獄のような収容キャンプ内④背中一面が焼けただれ、「殺してくれ」と叫ぶ少年⑤脱毛や斑点などの原爆症に苦しむ市民⑥などの写真に、原爆詩人・峠三吉の詩や子供たちの詩などを添付。「原爆投下は戦争終結のためには必要なく、戦後日本は単独占領・単独支配のためだった」ことを暴く迫力ある展示が印象的でした。

また『福島原発事故』では、「なぜ地震列島に五十四基もの原発が」「日本中の原発を止める」などのタイトルで関連パネルが展示され、「アメリカが投げ付けた原爆」と「アメリカが押し付けた原発」、また「広島・長崎の放射能からの復興」と「福島の放射能からの復興」を一体捉えてもらおうとの狙いが鮮明でした。

この他、大阪大空襲の写真や協力者から寄贈・提供された遺品・資料、俳句・折り鶴なども展示され、関心を集めていました。

#### ◆現情勢に反応した感想

会場ではアンケート用紙が配られると共に、随時「原爆と戦争の体験を語るついでに」が開かれましたが、その中で出された体験・感想・意

←展示写真から、一九四五年三月の東京大空襲のあと道路中に横たわる焼死体①と、同年十一月に撮影された広島市街の惨状②



見には次のようなものがありました。

・九歳の時、長崎で被爆したが生き延びた。

姉は防空壕にいたので火傷はひどくなかったが、結婚して子供も育てた後、白血球が上がり、半身不随になって死んだ。姉を捜しに出た父は、第五福竜丸の久保山さんと同じ斑点が体にできて死んだ。米軍は勝っているのに日本の年寄りを追いかけて、顔が見える距離から機銃掃射で遊んでいた。あの国は信用できない。日本を守るどころか盾になっている。戦争だけは絶対にいけ

ない。若い人に頑張してほしい（大正区原爆被害者の会・下村利治さん）

・思っていた以上に残酷な過去があることを知り、辛い気持ちになった。こんなにたくさんの命を奪った戦争が二度とあってはならない。今の日本はどんどん戦争のできる国へ向かっている。もっと国民が、特に若者が関心を持って今の動きを止めるべきだ（二一歳女性）

・今の世の中がどれだけ贅沢かを思い知った。小学生の書いた原爆詩が重く胸に染みた。自分たちと戦った人々が今も苦しんでいるのに、まだ戦争を続けているアメリカには考えを改めてほしいと思った。日本政府はアメリカに気を使って本当のことを伝えていない（十九歳女性）

・沖縄戦を体験した祖父が花火を嫌がるのを見て、戦争の真実を知りたいと思った。戦争のむきさ、辛さがよく分かった。一度と繰り返しがないことが大切だ（高校生と大学生の姉妹）

・戦後七十年もたつて、未だに原爆の投下があったから戦争が終わったようにされている。アメリカは謝罪もせず、正当化さえしているのは許せない（七二歳男性）



# 避難所の様子わかった

田中地活協が防災訓練積み重ね



→「自助・共助の質の向上を」と繰り返し返されている田中地活協の「避難訓練」Ⅱ六月一日朝（写真は避難収容所である田中小の内部案内）

「避難所の中がよく分かった」。六月一日（日）、田中地域活動協議会（田中地活協、近江隆司会長）が田中小学校で「避難訓練」を実施、同地域の避難収容所である同校の内部を案内しました。東日本大震災以来、「訓練の積み重ねで自助・共助の質の向上を」と各地域で反復されている防災訓練の一環。

午前十時。集合した同地域の住民約百人を前に、近江会長が「田中小学校が避難収容所に指定されているので、その内部を確認してもらう、いざという時に慌てないようにと計画した。今後は消防署などの協力も得て、こうした訓練を年二・四回は繰り返す、自助・共助の質を高めていきたい。今日は細かい所まで案内するので、よく見てほしい」と呼びかけました。

## ◆要援護者の部屋などを案内

このあと木村武三・田中地活協防災担当が参加者を引率して校内を回りました。「講堂には帰宅困難者が入る」「多目的室は本部になる」「いきいき教室は病人・けがが入る」「一年生の教室には障害者が入る」などと説明しながら案内すると共に、要援護者が入る部屋、妊産婦・乳

幼児が入る部屋、外国人が入る部屋、男性用物資保管場所、女性用物資保管場所、男性用更衣室、女性用更衣室、女性用物干し場、救護所、ペット置き場などの位置を示し、「その他の空いている所に私たち一般住民が入ることになる」と結びました。また、校庭では、水、乾パン、リュック、マスク、アルファ化米、三角巾などの防災グッズの展示が行なわれました。

## ◆「いざという時に安心」と参加者

参加した七十九歳男性（田中）は「老人クラブから参加しました。今日は収容所の中がどうなっているかがよく分かり、いざという時に慌てなくてもよくなった。防災は近所のかたまりでの助け合いが大事。日ごろの付き合いを大切にしていきたい」。回覧板を見て町会から初めて参加したという二人の三十代女性（夕凧と田中）は「女性用の物干しなど細かい所まで配慮されていることが分かり、安心しました。また防災グッズを紹介していた防災リーダーの男性は「公助が来るまでの三日間を持ちこたえるための一例としてのグッズ。家族の人数などに合わせて選んでもらえたら」と話していました。



# みなとサロンの

フリーキな

(池島・勝部泰臣 八十一歳)

私事で恐縮だが、家内に先に逝かれてから酒に溺れること幾たびか。フリーキをかける人いないから」と親しい人に言われ、少しは元に戻りかけてはいるが…。

オレのことなど言ってる場合じゃない。この国も今、フリーキをかける人がいない(ついでに効かない?)。民主主義とやらの多数決。いくら識者(チャーナリスト、元防衛大臣、評論家)などが新聞の片隅で「おやめなさい」と言っても止まらない。

死ぬかもしれない軍隊に誰が行く? 親も許さなだろつ。■数が揃わないから、その先に見えるのは徴兵制か。戦後、あの憲法で世界に「日本は戦争しませんよ」と言っただんじやないのか。それが日本の世界に誇る唯一の姿じゃなかったのか。

集団的自衛権 自公の間で言葉遊びしてる暇

があったらフクシマ復興や原発をどうするか、もつと身近の難題に精力を集中せんかい!

民間出身の公募校長は必要か?

(田中・小西正敏 六十五歳)

大阪市の小中学校のすべての校長を公募による民間出身者にするーこんな動きが大きな波紋を呼んでいます。

皆さんも存じのようじ、橋下市長が五月市議会で「昨年度にできた『原則公募制度』を今年度も続けるため、研修などに二千八百万円が必要だ」と求めましたが、野党会派の反対多数で否決されました。その一方で、野党が提出した「公募はできるが原則とはしない」との修正案は、市長の再議権(過半数の賛成でいったん可決されても、市長がもう一度話し合いを求めた場合、三分の二以上の賛成がなければ可決されない)によって否決され、結局、「今年度も校長は原則として公募で採用する」ことに決まりました。しかし公募のための予算は既に否決されているので、困った市長は「他の予算から流

用できるか調べてくれ」と教育委員会事務局に指示したのです。

この橋下市長の対応に対する各界の反応が毎日新聞(八月十八日付夕刊)などで大きく報道されました。それによると、総務省からは「法的には可能だが、流用が認められるのは予算不足の緊急的な穴埋めの場合であり、今回のような事例は該当しない」との見解が示され、専門の大学教授も否定的な意見を述べています。つまり、橋下氏の対応は予算流用の本来の趣旨を逸脱していると誰もが指摘しているのです。

その上で私が言いたいのは、そもそも大阪市の小中学校の校長すべてが公募による民間出身でなければならない理由がどこにあるのか、と一つ一つです。橋下氏が掲げる「民間の経営能力を生かす」「採用プロセスを透明化する」という発想は理解できないこともありません。が、それはあくまで「子供を健全に育成する」「子供一人ひとりに向き合う」という教育の基本の上でこそ考えるべき内容であって、「経営能力」や「透明化」が教育の質を維持・向上させる訳ではありません。むしろ、そのためにすべき

校長を民間出身にするという考えは、まさに本末転倒といわざるを得ず、先に述べた予算流用問題と絡むせう、一市民として看過できるものではないように思われます。

その場で読者の皆さん、この機会にぜひ「小中学校の校長はいつあるべきか」「何でも民間や公募という発想は市民のためになるのか」について考えてみてはどうでしょう。そこから「教育とは何か」といつかの日本に最も重要な問題についてコメントが得られ、展望が見えてくるかもしれません。

## あまのむらびい大阪市の生活保護行政

### 住江区・六十代男性

「じいまでやるがー」。六月二十七日に港区保健福祉センターから知人の生活保護受給者へ届いた文書を見て驚きました。

七月一日施行の「改正生活保護法」のポイントが、不正受給対策として、①罰金の上限を三〇万円から一〇〇万円に引き上げる②不正分の返還金にペナルティを上乗せできる③受給者を養えない親族にも福祉事務所の判断で説明を求

められる—というもので、これ自体が憲法五条（国民の生存権、国の社会保障義務）に反する内容を盛り込んでいるが、この文書はそれをも凌ぐものといえよう。

集約的「同意書」なるものへの署名の強要に表われ、そこには「自分や家族や親族に関係するあらゆること（年金・預金・医療・雇用など）を調べてもかまいません」という趣旨の誓約が入っているのです。一方で「個人情報保護」を叫びながら、一方ではじつじつ個人を丸裸にする、これが差別と人権蹂躪でなくてはなりません。そもそもこのような情報については、生活保護を申請する際や受給後の担当者の定期訪問で適切に話しかかれ、調べるべきは調べられているはず。それをなぜ改めて「調べられなくても文書は言いました」と誓約までしなければならないのでしょうか。おまけに文書が届いたのが改正法施行の四日前。心の準備をいさぐさ実行に移さず、いつ、何とも姑息なやり方です。

私たち市民はこの問題を自分の問題として捉え、このような「大阪の恥」ともいふべき市の生活保護行政を徹底的に追及する必要があると思

います。港新聞はその先頭に立ってほしい。

## 「美しい日本」「強い日本」とは、

### 埼玉県・七十代男性

七月一日から施行された「改正生活保護法」についての特集記事が「東京新聞」に掲載されました。それによると、大阪市には既に、①生活保護を申請した人に「働きなさい」と指導するといつやり方でなかなか支給を認めない②生活保護を申請する時に必要でない預金通帳などを提出させる③養育能力がない親族にまで「扶養できないのか」と問い合わせる—という「大阪方式」があり、「このやり方が（改正法施行を機に）全国に広まらないか」と心配する声が上がっている、というわけです。

東京オリンピック開催に絡めて「美しい日本」「強い日本」が叫ばれていますが、その裏で進むこのような実態を知り、暗澹たる気持ちになりました。特に、その先頭を走る橋下市政は非常に危険だと感じました。本心に「美しい」「強い」といっものは「弱者を助けながら共に歩む」というであり、そんな日本でありたいと改めて思

った次第です。

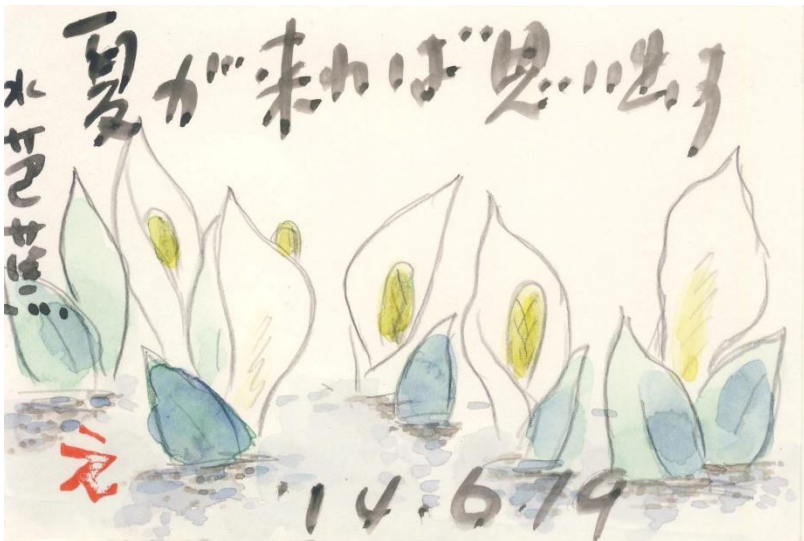
## 「地活協」から国政・市政をききた

（築港・七十年代 H）

『地活協』で地域よくなるか！ 旗揚げ一年  
期待と不安の運営続く（前号二頁）を読んで。  
会合のルビは分かりにくかったのですが、最後  
に問題点を列挙されたことで、この組織のこと  
が少し理解できました。私自身、防災訓練に参  
加するくらいで、地域活動にその熱心な方では  
ないので、大きなことは言えませんが、①役員  
でも仕組みが分かりにくい②一般住民はほと  
んど知らない③実務が煩雑④補助金が減っている  
——というのは確かに問題だと思いました。

そしてこれだけ問題があるにも関わらず、  
なぜこの組織が急ぎ立ち上げさせられたのかに  
ついての裏紙の分析、特に「地域に落とす金を  
減らして財界本位に税金を流すため」「金で連絡  
のルートを一化化する」ことで地域を「ソフトロ  
ー」しやすくするため」との指摘は、現在の橋下  
市政の民営化路線や安倍政権の戦争国家への暴  
走とリンクさせた時、あながち杞憂（きゆう）でも思えま

せんでした。つまり、単に「新しい地域組織が  
できた」「くらくらに軽く受け止めている」とあら  
ゆる組織が一化され、金も心も統制されて戦  
争へと突き進んでいった、あの戦前の苦い経験  
を繰り返すことになり兼ねない、と思った次第



辻悦子さん（市岡元町）からの絵手紙

です。「たかが地域、されど地域」。そんな気持  
ちを持って、一つした動きをしつかり監視する  
必要を改めて感じさせられました。

## 介護保険、これで良いのか

（設除・五十年代女性）

認知症の美父を中央区の特養に預けているの  
で「介護労働者の過酷な実態 制度改善やめ、  
労働条件改善を」（前号八頁）「叫んでいいと  
もー」に読み入りました。仕事を持つ私に代わ  
って、施設の方は衣食住全般、本<sup>み</sup>当によく見て  
下さり、心から感謝しています。が、その一方  
で、「ここに書かれてあるように、恐らく、仕事  
の大変さに見合っただけの待遇が得られないから  
でしょう、何カ月かに一度は誰かがやめられ、  
入れ替わっていることに心が痛んでいます。

介護保険ができるまでのことは知りませんが、  
果たして介護保険というのは良かったのかどう  
か。介護を必要とする側は施設探いやお金の心  
配が絶えないし、介護する側も経営や生活がや  
っていけないというのは、一体何のためにこ  
んな制度を作ったのかと苦悶（くもん）しています。素



人考えですが、やはりこの分野は民間任せにせず、国が税金をきちんと使い、責任を持つてやってくれるのが本当ではないでしょうか。大野様の提言の中では、特に最後の「そもそも介護保険には、利用が増えれば保険料も利用者負担も上がるという根本的問題があります。福祉のために税金を使えーの闘いが今こそ必要です」という言葉に共感を覚えました。

## 戦争がもたらす悲劇は様々

### (八幡屋・四十代女性)

坂本京子様の「戦争体験」(前二二頁)を読んで。いつもこの「ナーはきつちの読ませて頂いていますが、そのつもりは、戦争がもたらす悲劇は、戦闘や空襲だけではない、というのです。五月までは、空襲で死体の山が築かれた光景と共に、疎開先の父の里で子供ごうしがにらみ合ったこと、自分たちの家や家財道具をお父さんが近所の人に全部あげてしまったこと、お母さんが疎開先の苦勞で亡くなったこと等々が語られていました。その前には疎開先でのむじもにせなむも語られていましたが、

それらのすべてが、もし戦争がなければありえないことでした。六月でも食糧難や知人にだまされたことなど、やはり戦争がなければなかったであろう苦勞が語られました。

私たち戦後の世代が「戦争反対」を叫ぶ時、単に死者がたぐさぬ出るから、町が壊されるからという、頭の中の想像だけでなく、実際の体験者が語る、このように様々な事実を知った上で叫ぶことにより、より真実味と説得力が増すと思います。その意味で、この欄はこれからもずっと続けてほしいと改めて思いました。子供たちにはいつもプリントして読ませています。

## 銭湯の存続へ地域の知恵を！

### 田中・六十代女性

いつも利用している近くのお風呂屋さんが廃業され、とても寂しく、残念でなりません。主人の腰痛が限界にきたというのが原因だと聴き、それなら仕方ないかと思いました。それでも、港新聞では毎週「銭湯へ行こう」の呼びかけを掲載されているので、理由は何であれ、相次ぐ銭湯の廃業を「何とかならないか」と

の思いを込めて投書させて頂きました。

銭湯というのは家風品のない人が汗を流すだけの場ではなく、①健康②省エネ③社交場という重要な役割を持つ、地域になくてはならない存在だと思います。そこで考えたのですが、①休業は週一でなくてもよい②営業時間も短くてもよい③浴場掃除・ボイラー操作・番台などに分担して交代で作業するなどの条件で地域の有志を募り、グループで営業を続けるというのがよいでしょう。またこのように取り組みを区や市が援助すべきではないでしょうか。素人考えかもしれませんが、みんなで知恵を集めるだけの価値はあるように思います。

## 「町猫」の地道な活動がつつ

### 市岡・四十代女性

私は野良猫を見ると放っておけず、かといって、家では主人が「子供の健康によくない」と飼うことを許してくれないため、こっそり毎日餌をやりに行っています。周囲に迷惑がかららないよう掃除もしていますが、去勢や避妊の手術にはお金がかかることもあって、手が回りま

せん。そんな中、築港で「野良猫をひやらず、地域で共存できるように」と「町猫」<sup>まちねこ</sup>活動をされている人たちがいることを港新聞（四月三十一頁、五月三十一頁、六月三十五頁）で知り、頭が下がると共に、猫たちのため、また地域の人のために「本心」がありがごとく」と感謝しました。気持ちがあるからといって誰もが参加できる活動ではありませんが、こういつ方たちがおられるからこそ、地域の環境・バランスが保たれているように感じます。それだけに、五月号で書かれていたように、「広報・経済画面での行政の一層の支援」が必要だと思いました。

## 「ぼて丸の恋」に近所の女性重ね

（弁天・六十代男性）

いつもただで（ネット）で面白ドラマ（みなと人生劇場）を読ませてもらうって感謝しています。二月はお休みでしたが、四月から『ぼて丸の恋』の題名で復活したので安心しました。『ティサビー』スを受けている九十代の女性・世津子<sup>せしこ</sup>さんのはるか昔の小さな恋。平田<sup>ひらた</sup>広さ<sup>ひろさ</sup>んとの出会いから家族でのデートを経て、これ

からどんな風に展開していくのか、ワクワクです。六月号では戦争の影が現われ、悲しい結末も想像されますが……。また四月号では、彼女の故郷・愛媛県の浜の仕事や、昔の紡績工場の活気ある様子を思い浮かべることもできました。近所にも、高齢で一人暮らしの元気な女性がおられますが、ひょっとしたら同じような経緯をされたかもしれないので、その方の人生でも重ねながら読んでいきたいと思います。

## 面白いためになる「あさやけ」

（三先・ライター）

毎号「あさやけ」から読めます。面白くてためになり、また物書きとして勉強になるからです。五月号では二つの問題について考えさせられました。前半の「ウィルス」問題ではウィンドフスXPPのサポート終了をネタに、かつての日本の良き経営者と比べて現代日本の企業の姿勢がいかに身勝手になったかを対比した上で、最後に持ち出した懐かしの東京五輪音頭の替え歌に爆笑させられました。特に「ち・四年経ったらまた会ってしましょ」↓「五・五年経ったらまた

買いましょ」は超傑作でした。

同様に「本目の「STAP」<sup>スタップ</sup>問題では「芸のためなら女房も泣かす」↓「カネのためなら若い女も泣かす」が秀逸。真実のためでなく予算

獲得のため血眼になる現代科学の墮落に、宗教上の嘘<sup>うそ</sup>に端を発した「魔女狩り」を引き起こしに警告を発した結びも鮮やかでした。

## 「写真で旅するあの時」が面白い

（磯路・三十代男性）

「ソビ」勤務の合間にネットで読ませてもらうています。仕事で疲れているので、硬い記事は避けて、面白そうな記事だけのつまみ読みですが、取材に力を割かれていることが分かります。文章も丁寧で、けっして勉強になります。

五月号、六月号では「写真で旅する港区あの時」の写真が目にとまりました。昔の港区のことは知りませんが、同じ位置から撮った新旧の風景を並べて見せてもらうと、その長い年月の間に色々な苦労があったことが想像され、「ああいま暮っている港区はこんな風になっちゃったんだ」と、ちょっぴり感動します。

# 生涯スポーツを応援

「みなとすぽーつくらぶ」発足十年



→十周年を迎えた「みなとすぽーつくらぶ」の記念総会。区民の生涯スポーツを応援する意欲が溢れていた。六月二十八日、港区民センター

「身近な場所で、世代を越えて、気軽に生涯スポーツを」と「みなとすぽーつくらぶ」が発足して十年。これを記念して六月二十八日、港区民センターで総会と交流会が開かれました。

## ★自主運営を基本に

みなとすぽーつくらぶは二〇〇四(平成十六)年、区内のスポーツ関係者により「総合型地域スポーツクラブ」として発足。①健康づくり(競技志向でなくスポーツを楽しんで健康を増進)②人づくり(青少年にスポーツを通じてルールを守るなどの大切さを教える)③まちづくり(世代間交流によつて色々な人との巡り合いのある街をめざす)ーを活動理念に掲げ、①きまった会費で色んな種目を体験できる②勝敗よりプレーそのものを楽しむ③会員の自主運営であるーなどを活動の基本としながら会員や種目の拡大、スタッフの拡充を続けてきました。

現在、①ソフトバレー②卓球③ラグビー④バドミントン⑤蹴球⑥よさこいソーラン⑦テニス⑧ウォーキングの八種目に約三百五十人が登録。種目ごとに地域の熟達者が一人ひとりに合わせた指導をしてくれるので、「初心者でも

←新役員を代表して抱負を述べる南山和彦副代表(上)と、記念講演を行なう太田信彦さん(下)



楽しく続けられる」と好評です。

## ★後継者づくりや種目拡大へ抱負

総会では、①平成二十五年事業報告・決算報告・会計監査報告②平成二十八年事業計画案・予算案③平成二十六年・二十七年役員一などが協議され、いずれも拍手で承認された後、新運営委員会(萩野久美子代表ら八人、任期二年)を代表して南山和彦副代表が「これまでの十年を土台に、これからの十年は、①後継者づくり②クラブの増加③種目の拡大ーなどに取り組み、みんなで新しい形の活動を作っていきたい」と抱負を述べました。

## ★スポーツ障害への対策学ぶ

総会のあとは太田整形外科クリニック(弁天院長・太田信彦さん(昭和四八年市岡高校卒))



が「いつまでもスポーツを楽しむために」と題して記念講演。「肉離れ」一指の骨折「テニス肘」「野球肘」「頸椎損傷」など各種目に特有の障害を取り上げ、その特徴・原因及び治療法①安静②冷却③圧迫④拳上⑤固定を説明、アマチュアスポーツでは勝敗へのこだわりはほとんど「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の精神こそ大切「生涯スポーツマンであることに誇りを」と呼びかけました。

### ★設立時の奮闘に感謝、一層の発展期を

終了後、飲食を楽しみながらの交流会が持たれ、新旧の会員やスタッフ、関係者らが悲喜こももとの十年間を語り合いました。

スピーチでは、故・西林充子さん（元港区バレーボール連盟会長・元港区体育厚生協会会長）や現会長・萩野久美子さん（前港区バレーボール連盟会長、現港区体育厚生協会会長）らによる設立当初の献身的な努力に感謝する声や、ラグビーから始まった同クラブ発展の経緯を懐かしく振り返る声などが相次ぎました。

### ★「つづき楽し」「長く続けたい」と会員

総会に参加した会員の鈴木靖子さん（八八）は

「五年前、少しでも上手にプレーしたいと卓球クラブに入りました。試合に負けても『もっと上手になろう』と目標ができるので、しんどいことは全然なく、とても楽しいです」。

また三年前からウォーキングクラブで活動しているという会員の西村哲朗さん（八八）は「ウォーキングは難しいことはなく、誰でも、歳をとっても、簡単に始められ、続けられるのが魅力です。歩くことが少なくなった中で、汗をかくくらいまで歩き続けた後のビールは最高。これからも末長く楽しめそうです」と話していました。

### ★各種目の練習日など



↑好評の「みなとすぱーつくらぶ」の各種目。

上はラグビー、下はテニスの練習風景

なお、みなとすぱーつくらぶの現会員数は一百四十三（八月三日現在）。年齢別分布は、幼児十一、小学生八十六、中学生十四、高校生三、二十歳代八、三十歳代十、四十歳代二十一、五十歳代四十三、六十歳代二十一、七十歳以上二十五。また、今年度の各種目の練習日などは次の通りです。

- ・ソフトバレーボール 田中小で毎週月曜日、三先小で第一・三・五曜日
  - ・卓球 第一・二・三・四・五曜日
  - ・ラグビー 毎週土曜日
  - ・バドミントン 第一・四・五曜日
  - ・フットサル 男子は第一・四・五曜日と毎週日曜日、女子は毎週水曜日
  - ・ミニサッカー 波除小で毎週月・土曜日、磯路小で毎週日曜日
  - ・よさこいソーラン 第一・四・五曜日
  - ・テニス 第一・二・三・四・五曜日
  - ・ウォーキング 年間数回ハイキング開催
- 会費など詳細は同くらぶ事務局（港区民センター内 ☎六五七二〇〇一〇）へ。

# 四区バレー 港区勢健闘

弁天ク、波除女、築中OB

「区の垣根を越えてバレーボールを楽しむ、親睦と友情を深め、生涯スポーツを発展させよう」と八月八日、太正スポーツセンターで「四区親善バレーボール大会」が行なわれました。港・大正・西・此花区のバレーボール連盟の共催で二十八回目。各区から三チーム、計十二チームが出場し、朝から夕方までの熱戦の末、此花区の三チーム(カントリークラブ、マリノス、此花フレンズ)が優勝から二位までを独占しました。

港区から出場の三チームも口頃の練習の成果を発揮して健闘しましたが、弁天クラブ(昨年連盟杯優勝で出場権)は此花フレンズ(此花区)に二対一、西中OB(西区)に二対一、波除女性会(昨年年市長杯優勝で出場権)は西中学校(西区)に二対一、モストクラブ(大正区)に二対一、築中OB(抽選で出場権)はノーミット(大正区)に二対一、カントリークラブ(此花区)に二対一

—といずれも予選で敗を喫し、決勝トーナメントへ進めませんでした。

## ●マナーの点でも向上

応援に声を枯らした港区バレーボール連盟の薮下俊文会長や萩野入美子前会長らは「昨年は弁天クラブが優勝、ISOJが準優勝と港区チームが素晴らしい結果を残しましたが、今年は此花区のレベルが群を抜いていました。親睦の中にもこうして切磋琢磨して競技レベルを上げていくことがこの大会の目的でもあり、その意味では大変良かったと思います。地域を越えて声を掛け合い、健闘をたたえ合う姿も爽やかで、技術と共にマナーの向上も実感された大会でした」と話していました。

## スポーツ短信

### ●大阪・港ノイズ(少年硬式野球)

六月二日と八日は浜寺大会に出場。一回戦で勝利、二回戦で健闘むなしく敗退。一二二日と二八日は南大阪支部予選に出場。一回戦に勝利、二回戦は延長八回までの接戦の末、惜敗。週末は練習試合。硬式野球に興味のある小・中学生の体験練

習・入部説明随時。☎六五七一・六七五三スポーツさん又は☎〇九〇・八三八五・四八五香西。

### ●みなとプロレスSP「夏の祭りのプロレス」

プロレスで地域を元気に！「青少年に正義感と勇気を！」と活動する港区のプロレス団体「みなとプロレス」(代表:ミッキー隼野さん)の第四回特別興行。八月十七日(日)十三時から港区民センター(弁天一・一五、☎六五七二・〇〇二〇)で。入場無料。正義派(ミッキー隼野)ジュニア目世などと悪漢(ディアブロ)などの対決をメインに、プロレス二試合Ⅱ写真展今年三月の興行から、歌謡ショー、ちびっ子プロレス体験タイム、模擬店(オール白田)などを企画。問い合わせはH・E・V・o・u・t・i・o・n企画(☎〇八〇・三〇六八・〇六三九)へ。



# 銭湯の灯また一つ…

## みなと温泉 惜しまれ廃業



「びっくりしたわ」「寂しなるわぁー」。次々と番台に声をかけながら入ってくるお客さんたち。六月三十日、「みなと温泉」(田中二丁目)の脱衣場・浴場は、六十二年にわたる営業の終焉を我が事のように惜しむ顔で溢れました。

### ◆職業病の腰痛が限界に

一九五三昭和二十八)年創業、銭湯本来のゆつたり広い湯舟が人気だった同温泉が「突然で申し訳ありませんが、六月三十日をもって閉店させていただきます。長年に亘り沢山のお客様にご愛顧賜り、厚くお礼申し上げます。お客様方の今後の「多幸」と健康を心よりお祈り申し上げます」とのお知らせを玄関に貼り出したのは六月下旬。一代目主人・清水和彦さん(六二)の職業病ともいえる腰痛が、長時間重労働に耐えられなくなつたことが原因でした。馴染みのお客さんたちの顔が浮かび、また長年の仕事への愛着もあり、本当に辛い選択でしたが、和彦さんの母親・キミさん(九二)、妻の芳子さん(六二)とも相談の上、閉店を決定しました。

### ◆ピンチ乗り越え地域貢献の歴史

同温泉では、他の銭湯と同様、キミさんや芳

子さんも入れて、文字通り家族ぐるみで営業を続け、これまでも家族の体調悪化などで何度も経営の窮地を迎えましたが、そのつど「楽しみにしてくれるお客さんのために」「銭湯の灯を消したらあかん」と乗り越えてきました。そうした地域貢献の長い歴史を振り返ると、今回の廃業も「お疲れさまでした」と敬意と感謝の気持ちで受け止めるべきと思われる。

### ◆ゆつたり湯舟が人気だった

最後の入浴日、常連客の七代男性(夕四)は「ここは湯舟がゆつたり広いのがよかった。湯温が高めで、冬は湯がめせんかったな。これからどこへ行ったらええんや」。車でやって来た四十代男性(弁天)は「昔ながらのゆつたりシンブ



→過去にもピンチがあったが、家族ぐるみで乗り越えてきた。写真は半年間の休業から再開を果たした二〇二二年九月二日の様子



ルな造りが気に入っていました。これだけの設備、惜しいですね。常連客の六十代女性(田中)は「全盲の方が安心して利用される様子が印象に残っています。」「という場合は地域の有志やボランティアの手で何とか維持できないものでしょうか」と誰もが残念をうけていた。

### ◆求められる公的助成と住民の協力

①大きな湯舟に浸かると出る アルファ 波は心身の健康に最高の薬②水や火力をみんなで作るのは最高の省エネ③裸の「コミュニケーション」は日本ならではの伝統文化―とは多くの学者が指摘する公衆浴場の特長。いわば地域の宝であるにもかかわらず、戦後の生活様式の変化による風呂の普及で顧客減が続く銭湯。その中で「長時間軍労働にも耐えながら灯を守り続ける業者。高齢化や設備老朽化を機に廃業に至る例が後を絶たず、港区でもかつて二十を超えた銭湯が今では一桁。今こそ業者の涙ぐましい奮闘努力を支える公的助成のいっそつの充実、そして「家風呂のある家庭も週に一度は銭湯へ」といった形で地域住民の協力が求められます。

### 地域の催し

## 遊びも食べ物も一杯！

### 繁栄商店街の「夜店」 超活況



→ 身動きも取れないほどの賑わいを見せた繁栄商店街「繁栄韋駄天尊夜店まつり」。飲食や遊びの店が通路を埋めた。六月十三日、南市岡

夏のはじめ、アーケードの下に笑顔が溢れました。六月十三日(金)夜、南市岡三丁目のはんらい繁栄商店街で「夜店」が開かれ、地域の人々が工夫一杯の遊びや飲食を楽しみました。同商店街振興組合(小嶋幸造理事長)の主催で三十年以上にわたり毎夏の初めと終わりに催される伝統行事の「前篇」。この日は地域の守り尊である「韋駄天尊」の誕生日にあたることから「繁栄韋駄天尊夜店まつり」と名付けられました。

### ● かき氷や金魚すくい

通路の両側には、「かき氷」「ミルクせんべい」「たまごせんべい」など懐かしさと目新しさを組み合わせた食べ物店が並ぶ。西田や、シヤンボカラグラフィックプロモーション「サイコロゲーム」「ニヤ金魚すくい」など遊び心と工夫を凝らした遊び店(どれも一回百田)がずらり。そのどれにも子供たちの行列ができた。商店街の人たちが汗だくで対応していました。午後八時半から八時半まで、「いっしょいっしょ」「やったー」などの歓声が飛び交い、身動きも思うようにできないほどだった。

通路の一角には初登場の「紙之屋」コーナー

「迫力があつたジャンボカラガラ」④とユニークな味わいが人気だった「たまごせんべい」⑤



も設けられ、市岡小学校図書ホランテアの女性たちの熱演が、賑わいの中でひととき幼児たちをおとぎ話の世界へ引き込んでいました。また通路の東端に設けられた「韋駄天尊」の祭壇には、<sup>さいせんと</sup>賽銭を投げ、手を合わせる親子づれなどが後を絶たず、この商店街に寄せる地元の人々の想いが伝わってきました。

### ●地域活性化につながる

ミルクせんべいを食べながら休憩していた二十代女性、金子侑紀さん(ゆきき)は「友だちの家族に誘われて来ました。子供の頃にはよく来ていましたが、大人になってからは初めてです。懐かしく感じると共に、子供たちの笑顔を

見ているだけで嬉しくなります。こういつつ伝統行事は少なくなる一方ですが、ぜひこれからも続けてほしいですね」と話していました。

やはりミルクせんべいを食べながら一休みしていた田中聖之さん・知佳さん夫妻と結心ちゃん(四歳)・太翔くん(二歳)姉弟の四大家族は「すべ近頃のマンションから来ました。一回目です。この辺に子供がこんなにたくさんいたのかと驚いています。娘はスパーボールをたくさんすくえ、おいしいミルクせんべいも食べられ、とても喜んでいきます。夜店は単に懐かしいだけでなく、地域の活性化にもつながる、とても意義ある催し。これからも続けてほしいです」



→男の子に人気のあつた「ザリガニすくい」⑥と歓声が絶えなかった「カプセルボール」⑦

「幼児をおとぎ話の世界へ誘った初登場」紙芝居⑧と、韋駄天尊に賽銭を投じる男の子⑨



(聖之さん)と話していました。

### ●後編 は八月下旬に

同商店街振興組合の小嶋理事長、近藤副理事長らは「毎年のことながら、地域の方にこれだけ集まってもらって感激しています。今日は金曜ということで例年以上に賑わいました。準備など大変ですが、これからもこういつ催しを重ねることで地域の皆さんに商店街へ足を運んで頂き、そのことを通じて地域の活性化にも貢献できればと思っています」と話していました。

なお同商店街「夜店」の後編 は八月下旬に地域との共催で取り組まれる予定です。



# 生伴奏に声合わせ

ゲスト迎え「シャンカフェ」快調



→ 番野さん手前らの迫力の生伴奏で懐かしい歌に声を合わせた「ねこじゃらしのシャンテ☆カフェ」 六月二十八日、港近隣センター

「やつぱり生伴奏は迫力があるなあ」。懐かしい歌に老いも若きも声を合わせる「ねこじゃらしのシャンテ☆カフェ」が「回目」を迎え、港区出身で元NHKのご自慢ピアノ伴奏者・番野<sup>はんのひろむ</sup>さんをゲストに迎えてさらにパワーアップ。六月二十八日、港近隣センター（八幡屋）には、初回の噂を聞いてやって来た中高年女性を中心に約五十人が歌集を手に楽しい一時間を過ごしました。歌を愛する人たちの集まり「ねこじゃらし歌サークル」が主催。学童保育関係者の集まり「ゆずりはの会」が協力。各地で歌声喫茶などを催す「ねこじゃらし音楽事務所」が企画協力。

## ♪ この道のベテランがリード

午後一時、自称・美人ソプラノデュオ「ピチ☆リチ」（原田<sup>はらだ</sup>寛子&山沢<sup>やまざわ</sup>桃<sup>もも</sup>ごさん）が進行役に立ち、ゲストの番野さんと同事務所の喜多<sup>きた</sup>陵<sup>りょう</sup>介<sup>けい</sup>代表を紹介。番野さんは昭和五年生まれの八十四歳。同十一年までの幼少期を朝潮橋で過ごし、両親は八幡屋新道商店街で煙草屋を営業。同九年の室戸<sup>むろと</sup>台風では浸水などで大変な被害だったとか。戦後、テレビがない時代から関西地区の

「感嘆の声が上がった番野さんのピアノと喜多さんのアコによる『シェラシー』の演奏」と、明るいうリードで盛り上げたピチ☆リチさん



NHKのご自慢で三千年間ピアノ伴奏を担当。以後も各地で歌唱指導するなどこの道の超ベテランです。一方の喜多さんもフリーピアニストなどとして関西や首都圏のライブハウスを中心に活躍しながら各地で音楽活動を展開中。この日は番野さんがピアノ、喜多さんがアコーデオ<sup>アコ</sup>ン（前奏とピアノ）（後半を担当しました）。

## ♪ リクエストで『少年時代』など

参加者一人ひとりに歌集が手渡され、さっそくリクエストを受けての歌唱がスタート。『たなばたさま』『先生』『ハル祭』『恋のバカンス』『銀座カンカン娘』『カミニート』『小さ



な喫茶店』『上を向いて歩こう』『少年時代』等々、童謡・唱歌から歌謡曲・フォーク・シャンソンまで、だれもが、いつか、どこかで聴いた、懐かしい歌ばかり。ピチ☆リチさんの明るいうリードや、参加者の中にハイレベルの発声ができるグループがいることもつられて、みんなのびのびと唱和。途中で披露された番野さんのピアノと喜多さんのピアノによる『シエナシー』の見事な合奏には「さすがやなあ」と感嘆の声が上がっていました。

### ♪ 歌のミニ解説や誕生日プレゼントも

歌にまつわる小話を聞けるのもこの催しの特徴で、『夏の思い出』では「歌詞にあるのじゃくなくって意外と『じっさいんです』、『なみり雪』ではフルカって変わらないですね、どんな化粧品を使っているのでしょうか」などが笑いを誘い、『小雨降る路』のように技巧を要する歌には「タンゴのイメージでリズムを付けて」などといった伝授も。六月が誕生日の参加者には喜多さん作『お誕生日のうた』などのプレゼントが。また今回から持ち込まれた主催者独自の機器が音響効果をさらに向上させていました。

### ♪ 「生伴奏が素晴らしい」と参加者

八幡屋から来たという中根昭さん(七二)ら三人の熟年男女グループは「やっぱり生の伴奏は迫力がありますね」「番野さんのピアノはさすがに素晴らしい、乗ってきます」「思い切り声を出すことでストレス発散になります」「みんなで歌つので下手でも気楽に歌えます」「これまで知らなかったシャンソンなどにも、とても素敵な歌があることが分かりました」などとも感想を聞かせてくれました。

### ♪ 「日常生活に良質の生演奏を」と主催者

また一回目を終えたこの取り組みの狙いについて、主催の喜多代表らは「私たちがめざして



→ 「下手でも間違っても大丈夫」とのびのびを開ける参加者。この日は女性が目立った

いるのは、①日常生活に良質の生演奏を届けよう②美しい日本語を次世代に継承しよう③三世代で楽しめる歌を広げようという三つです。核家族化が進み、人々が孤立しやすい今の世の中を、音楽を通じて少しでも明るくできたらいい。これまでも全国各地で、この港区では弁天町や天保山で、活動してきました。出かける先のない人、日ごろの会話が少ない人、引きこもりがちの人などが、この広場を通じて友情の輪を広げられることを心から願っています」と話していました。

### ♪ 次回は七月 王八日

「シャンテ☆カフェ」は港近隣センター(八幡屋一・四・一〇)で毎月第四土曜十四時から。不定期にゲストを迎え、リクエストを中心に約二時間、即興で進行。歌集貸与。参加費千円(税込)。次回は七月 王八日。問い合わせは「ねこじゃらし音楽事務所」(弁天四・一・一・二二〇)、☎六五五六・六八二八、携帯〇九〇・二五九九・六八五五 喜多、<http://necojoyarashi.jimdo.com/>または「めずりのはの会」(☎六五七二・六八四二)まで。

# 文化の香り高い街に

関西フィルとともに歩む会 総会&演奏会



→好評だった「関西フィルとともに歩む会」の総会&演奏会!! 弁天町ORC200生涯学習センターで(写真は弦楽五重奏の演奏風景)

「文化の香り高い街をみんなでつくる」。港区に拠点を置く関西フィルハーモニー管弦楽団を応援する「関西フィルとともに歩む会」が発足から十八周年を迎え、これを記念して六月一日、弁天町ORC200生涯学習センターで総会と演奏会が開かれました。約百人が参加し、支援活動の一層の発展を願いつつ、同楽団メンバーの演奏などを楽しみました。

総会では足立敏博代表世話人が挨拶に立ち、一年間の活動を報告すると共に、「文化予算の削減や消費増税で苦境にある楽団への支援活動を一層推し進めると共に、公的助成の拡充を求める声を広げていきたいと思います」。

## ♪弦楽器の話や演奏を楽しむ

コンサートの第一部は「オーケストラの中の弦楽器のおしごと」。弦楽五重奏の各楽器の役割や特徴について、チェロの太田道宏さんが「第一ヴァイオリンは第一ヴァイオリンから三度下にずらしたりして弾く」「ヴィオラは中音で地味だが重要な役割を果たす」「チェロはヴァイオリンより一オクターブ下を弾く」「コントラバスはチェロと同じ旋律を弾いて響きを持たせる」「チ

「総会で支援を呼びかける足立代表世話人①」と「弦楽器のおしごと」を語る太田道宏さん②



エロとコントラバスが主役に躍り出たのはベートーヴェン時代から」などの興味深い内容をクイズや演奏を交えてユーモアたっぷりに披露、「オーケストラではこうした個性と個性の響き合いを楽しんで下さい」と結びました。

第二部は「弦楽オーケストラ名場面集」。モーツァルト、バッハ、ビゼー、チャイコフスキーなどの名曲から弦楽器が躍動する部分が五重奏で次々と演奏され、ブリテンの華やかな「シンブル・シンフォニー」が終幕を飾りました。

## ♪文化発展に欠かせぬクラシック

築港から来た八十代男性会社員は「ずっと会員でしたが総会には初めて参加しました。今日は弦楽器の役割や合奏の美しさなどを面白く教えて頂き、楽しかったです。クラシックは全て

の音楽の基本であり文化の発展に欠かせません。昔は貴族がパトロンとして支えていましたが、今はそんな企業もなくなり、公的な支援が必要で。それを上に立つ人が勝手に打ち切るなどして良いものでしょうか。これからも楽団を応援していきたい」と話していました。

全体として、団員のサービスピ精神と市民のサポート熱が溶け合い、クラシック演奏会にありがちな堅苦しさを感じさせない、家族的な雰囲気印象的でした。

### ♪ 求められる公的助成と草の根支援

同楽団は一九七〇年創立。九三年から弁天町オークに練習場と事務所を置き、〇三年にはNPO法人として再出発。幅広いパートリーと質の高い演奏で、関西を代表する楽団に成長。子どもたちに音楽の楽しみを広げるワークショップ開催や平和コンサートへの協力も。文化予算の削減が続く中、公的助成の充実と草の根の支援が求められています。

「歩む会」は年会費十円。問い合わせは ☎ 五七四・七七五八 足立代表世話人まで。

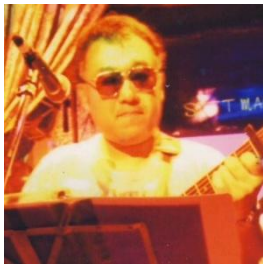
## ライブ情報

### ● 八幡屋出身ロックドラマー 桐田勝治さん きりたかつじ 日

本のビジュアル系ハードロックバンドのトップを走り続ける超人気バンド「ガーゴイル」「ザ・クロマニヨンズ」に所属。「周りを元気づける灯台のようなミュージシャンに」と演奏に磨き。

港中学校出身▽ガーゴイルの十六枚目のニューアルバム『解識(げしき)』が八月二十七日(水)に発売予定。三、四〇円。 ☎ 〇三・三三八一・

九一八〇ファーストセル▽八月一日(土) 十六時から心斎橋BIG CATでガーゴイルなど数バンドによるライブに出演予定。当日四千六百円、前売四千五百円▽八月五日(火) 十八時から神戸VARIETYでガーゴイルなど数バンドによるライブに出演予定。当日四千五百円、前売三千八百円。



↑ 桐田勝治さん(上)とペドロロさん(下)

### ● 三矢のフォーク歌手ペドロさん 切断プラザ

ーズ(親指切断の共通体験を持つ三人で〇六年結成)のリーダーやソロで温かなオリジナルフォーク▽毎月第一・三木曜 二十時ザ・セラー(中央区西心斎橋、 ☎ 六二二二・六四三七)▽毎月第三火曜 二十時かつおの遊び場(中央区宗右衛門町、 ☎ 〇九〇・五八八一・七〇一五)▽毎月第二火曜 二十時半ロージー(中央区西心斎橋、 ☎ 六二二二・三九九九)。

### ● 市國元町在住の音楽ユニット「花☆キャラ」

生活に根ざした明るく前向きなオリジナルソング▽CD『マルグリータとトマトパスタ』『あなたらしくあたらしく』▽http://www.goon.ne.jp/shanaz383



↑ 花☆キャラの演奏風景



# 木陰で爽やか演奏

## ランチタイムコンサート好評



→初夏の木陰で音大生の爽やかな演奏を区民が楽しんだ「八幡屋公園ランチタイムコンサート」  
 Ⅱ六月八日、八幡屋公園芝生広場で

初夏の木陰で音大生の演奏と区民の歌声が爽やかに響き合い、「八幡屋公園ランチタイムコンサート」が六月八日(日)に催され、区民ら約二百人が参加しました。スポーツパーク八幡屋活性化グループの主催で四回目。昨年十月スタート以来、「無料でいい音楽を楽しめるよ」との噂が広がり、この日は好天にも恵まれて最高の賑わいとなりました。

### ♪「知床旅情」「ふるさと」など

演奏したのは大阪音楽大学二回生の西真一樹さん(ピアノ・ヴィブラホン・カホン)と土池美沙さん(トランペット)。よく知られた「知床旅情」「川の流れるように」「ふるさと」には会場から自然と喝和が起り、「君をのせて(天空の城ラピュタより)」「ルパン三世」「ブルースフォーギルバート」「夜空のトランペット」には「きれいなあ」の聲が聞かれました。最後はアンコールが何度もかかり、「知床旅情」を再演奏。一体感が高まる中、約三十分間のコンサートはお開きとなりました。

### ♪「本音に楽しかった」と参加者

初めて参加したという八十代女性二人(八幡

「ヴィブラフォンを演奏する西真一樹さん」とトランペットを演奏する土池美沙さん(下)



屋と田中の老人クラブ員は「童謡コーラスの会に入っています。今日はお天気も良く『ふるさと』も歌え、本当に楽しかった。これからも誘い合って参加したいです」と話していました。

また、演奏した二人は「会場から歌声が起ると一体感が感じられ気持ちに乗ってきます。だいぶ慣れてきましたが、演奏水準やトークの技量をさらに高めていきたい」と話していました。因みに、西さんは港晴小・築港中・港高を卒業し、音大では打楽器を専攻、将来は港高で音楽教師を志望。一方の土池さんは箕面市在住、音大では管楽器を専攻し、東京ティズニーランドの楽団ハレードで演奏するのが夢とか。

主催者によると、次回は十月ごろの予定。

# さらさら清涼感が人気

風庵「近江の麻展 今月末まで



→「さらさらとした清涼感がいいね」と好評の「近江の麻」展。遊び心いっぱいの作品が勢揃い  
 Ⅱ繁栄商店街のギャラリー＆カフェ「風庵」で

「さらさら」として清涼感があるね」。繁栄商店街のギャラリー＆カフェ「風庵」で開催中の「近江の麻展」が好評です。七月三十一日（木）まで。

出品したのは「近江上布伝統産業会館」。国の伝統的工芸品「近江上布」をはじめ「近江の麻」「近江ちぢみ」などの産地である近江・湖東地域にあって、「古き良き麻の手仕事を継承・発展させよう」「良質な麻を身近に感じてもらう」と全国へ近江麻の良さを発信しています。

## ◆琵琶湖の恵みを受けた 夏の繊維

同館の担当者は「人類最古の繊維とされる麻は、丈夫で吸水・発散性に優れ、肌に優しく、さらさらとした清涼感があることから『夏の繊維』とも呼ばれ、昔から『普段使い』として人々に好まれてきました。今回の展示では、アマチュアクリエーターの手による遊び心溢れる様々なジャンルの作品が出品されていますので、ぜひこの機会に、琵琶湖の恵みを受けた近江の麻に触れてみて下さい」と呼びかけています。

主な出品作品は次の通り。

①布絵本Ⅱくるくるつと巻いて簡単に持ち運びできるサイズを中心に。

←風庵「近江の麻展」に出品されたアイデア雑貨類①とタオル・ハンカチ・てぬぐい類②



- ②アイデア雑貨Ⅱ癒しのティディア、愉快的なガラガラボール、お手玉など、遊び心が満載。
  - ③財布・ポーチⅡ使いやすさを意識した、主婦の工夫とアイデアが小物の中にぎゅっしり。
  - ④バッグⅡデザインや大きさに込められた作者の想いや個性が楽しめ、もちろん実用にも。
  - ⑤タオル・ハンカチ・てぬぐいⅡ清潔感があり、洗ってすぐ乾く長所を生かした実用品群。
- 風庵** 南市岡二二一・一〇、☎四九六五・五九八、十時～十八時開館（日曜定休）。
- 近江上布伝統産業会館** 滋賀県愛知郡愛荘町愛知川二二・七七、TEL〇七四九・四一一・三三四六、FAX〇七四九・四一一・六四八八。



# 色物を明るくしつゝ

石炭倉庫 余韻残った『情の夫婦月』



→古今亭志ん生の色物落語『風呂敷』をベースに浮気話を明るくしつゝと描いて好評を博した『情の夫婦月』。六月下旬、石炭倉庫で

落語をベースに浮気話を明るくしつゝと描いた『情の夫婦月』が六月下旬、波除のフリースペース「石炭倉庫」で上演され、好評でした。石炭倉庫を拠点に庶民の生活感情や社会的メッセージを込めた演劇を世に問い続ける「あんが」のおまる一座のスタジオ公演。古今亭志ん生の色物『風呂敷』からあんがのおまる座長が脚本・演出。ミッシー原本さん、あんがのおまるさん、道野学さん、浜木克行さんらが出演。

## ♥ 善良な亭主と浮気な女房

——時代は太正か昭和、舞台はたぶん東京の下町。ある日、豆腐屋の親方をしている亭主が「ハマ横びで寄り合いがある。遅くなるから先に寝てな」と出かける。女房のおみつは色っぽい悪女型。夕方、風呂から帰ってラジオの落語に大笑いしていると、豆腐屋で働く若者・新吉が親方を訪ねて来る。どうやらおみつとは訳ありの様子。親方の不在に躊躇する新吉だったが、おみつの執拗な誘いと折からの雨に促されて下駄を脱ぐ。亭主の帰宅が遅いと安心して新吉に寄りかかるおみつ。そこへ用事を早く済ませた亭主が酔っ払って帰って来る。慌てて新

「女房の亭主と間男と兄が三者三様の顔を見せ

① 最後はしつゝ夫婦の情が匂った②



吉を押し入れに隠したは良いが、亭主はその前で座り込んでしまつ。困ったおみつは近所の兄に相談。兄はあれこれ講釈を垂れながらも世話好きの性分から放っておかず、一計を案じる。ほどなく妹宅へ上がり込んだ兄。押し入れの前で、まだ酔いの醒めぬ亭主に、ある体験を聞かせる。「浮気の最中に亭主が帰宅して、慌てた女房が男を押し入れに隠すが、亭主はその前で座り込んでしまい、困った女房が俺ん所へ相談に来た。そこでその家にながって、しつゝ」と実際に亭主に風呂敷を被せて、その隙に押し入れの男を逃がしてやったんだ。話し終わって風呂敷をとった時には、もちろん新吉の姿はな



かった。「間拔けな奴もいるもんだ」と笑いかける亭主。そこへ戻ったおみつも話を聞いて、「ほんとに間拔けな男だねえ」とすまし顔。それでも心の底では互いに愛し合う夫婦。やがて梅雨の晴れ間の綺麗な月夜、「おまえさん、寝ようよ。ほら、青いお月さまが笑ってるじゃないか」と亭主にしなだれかかる女房であった――。

### ♥ 庶民間の人間関係を

日常的には何かと揉め事や不満を抱えながらも、根底では信頼し合う庶民同士の人間関係が、単純な中にも笑ひあふれるストーリーを通して伝わってきました。善良な亭主のどこか間拔けた面白がり、色っぽい女房のどこか呑気なたたかき、世話好きな兄貴のどこか外れた博覧ぶり、イケメン新吉のどこか憎めぬ小心ぶりといった登場人物それぞれの個性を存分に発揮させたベテラン役者陣の安定した演技は、落語的な絶妙の間の取り方とも相俟って、素晴らしい温かな人間模様を生きて描き上げました。総じて笑い豊かな中でも出色だったのは、女房の兄貴が妹のため亭主をまんまと欺く場面。押し入れの中で戦々恐々の新吉は、襖を隔て

て愉快そうに話を聴く呑気な亭主との対比が客席からは丸見えで、爆笑を誘いました。また女房の兄が物知りをひけらかす件では、「女は三界に家なし」などの警句を「女は三階には住めないんだ」などと自ら流に解釈して得心する姿が愉快でした。

### ♥ 余韻に満ちたラストシーン

その日、冒頭の口舞（あんが）がおまるさんとは、その匂い立つような艶っぽさで色物の展開を予感させ、幕間に流れるジャズ風のピアノ曲や三味線風のギター演奏は、軽妙な物語をより軽快に運び切りました。

全場面の口舞はラストの月見シーン。寄り添い、共に客席上方（の）夜更へ視線を投げながら酒と言葉を交わす亭主と女房。その温かくもしっとりとした構図は、観劇した夫婦やカップルの仲をもより円滑にさせる余韻がありました。なお、ベースとなった『風呂敷』は色物であったがゆえに、昭和初期には「禁演落語」に指定されましたが、終戦を境に復活し、志ん生師匠の持種になったといわれています。

### 演劇ガイド

● あんががおまる一座スタジオ公演『被爆の証言 あの日、あの時、わたしたちは』 あれ

から六十九年。昭和二十年八月八日に広島で被爆した人々、同九日に長崎で被爆した人たちの証言を集め、二度とあの悲劇を繰り返させまい。―との決意と恒久平和への願いを込めて入魂の舞台化。演出はあんががおまる座長。

出演はヨシシー原本さん、久木弥九蔵さん、山辺和美さん、岡戸あつ子さん、あんががおまるさん他。八月八日（水）十八時半、同七日（木）十八時半、同八日（金）十八時半、同九日（土）十四時の四回公演。料金など詳細問い合わせや申し込みは会場の石炭倉庫（波除ハ―五―一ハ）JR井天町駅から国道四二号を北へ直進 安治川堤防突き当たり右すべ。 ☎六五八一・〇六六四、FAX六五八一・二六七〇、チケット専用フリーダイヤル〇二〇・二三三四二・二三九 Eメール theater@sekittansoukoo.com ホームページhttp://www.sekittansoukoo.co.jp。

# 大人も子供も大笑い

市岡 西明寺で地域寄席さらに熱気



→地域の様々な層の協力で開かれた「第四回市岡寄席」。桂福丸さんの古典落語に大人も子供も大笑い。六月五日、市岡の西明寺で

港区在住の断家の分かりやすい落語に大人も子供も大笑い。市岡地域の地域寄席「市岡寄席」が六月五日に市岡丁目の紫雲山西明寺で催され、賑わいました。「まち起こしと地域人材の活用」を掲げて昨年七月にスタートし、四回目。当初は同寺の主催でしたが、第二回（今年一月）からは市岡地域活動協議会広報部会、市岡連合振興町会、西明寺、繁栄商店街振興組合など市岡地域の諸団体・個人からなる「市岡寄席実行委員会」の主催になりました。

## ◆寄席通じて地域盛り上げを

「豪華景品が当たる抽選会あり」の宣伝も効いて、定員六十名に立ち見も出、また運営資金として呼びかけられたカンパに大勢が応じる中、寄席は午後七時に開演。同寺住職の熊本宜雄さんが主催者挨拶に立ち、自転車整理など地域の協力に感謝を述べた後、「生で落語を聴く国民は一割といわれていますが、港区ではこの催しを通じて一割、三割へと増えることを願っています。一緒に地域を盛り上げていきましょ」と呼びかけました。

## ◆名前の読み違いが生む失敗譚

前二回にも勝る熱気の中、登場したのは、初回から連続出演となる市岡在住の若手落語家・桂福丸さん。一九七八年神戸市に生まれ、灘中、灘高、京大を卒業後、英語落語を学び、アメリカ公演も。〇七年、四代目桂福団治さん入門。名付け親は作家の故藤本義一さん。現在、天満天神繁昌亭やテレビ番組組に出演中です。福丸さんはまず「スライミングスクールで二十五泳げるようになった八十五歳のおばさんに冗談で『これだ三途の川も泳いで渡れますね』言ったら、明るる日からターンンの練習を始めたりました」などと枕で笑わせた後、古典落語から、名前の読み違いが生む失敗譚『平林』を演じました。

「本町の平林さん」へ手紙を届けに使われたのは、誰も読めない子供の奉公人・定吉。読み方を忘れ、出会った人に尋ねながら探しかぐが、「だいらばやし」「ひらりん」など、どれも違う読み方のため誤りが分からなくなり、全部を叫びながら歩く。そのうち目的の平林さんと出会うが、「あんた、ひらばやしさん？ 惜しいなあ、お宅に用はおまへん」。

## ◆夢を巡って大騒動

続けて福丸さんは、やはり古典落語から、夢を巡る滑稽譚『天狗裁き』を演じました。

一昼寝から目覚めた亭主に妻が「どんな夢みてたん?」「夢なんかみてへんがな」「私に言えんような夢かいな」と口論がエスカレート。仲裁に入った長屋の隣人も大家も夢の中身を聞きながら、「言わんのなら出ていけ」。遂に裁判沙汰になるが、代官は亭主に軍配を上げたものの、やはり夢が気になり、「言わんと審問に処する」。それを助けた鞍馬の天狗までもが「優しく申しておるうちに喋らんと、こつしてくれるわ!」と爪を立てる。「助けてくれ!」「あんだ、えらいつなされて、どんな夢みてはったん?」。



→「市岡寄席」を通じてのまち起こしを呼びかける熊本宜雄住職⑤と、古典落語二席で大爆笑を起こした桂福丸さん⑥

一席とも、現代人にも分かりやすくアレンジした言葉づかいと筋書き、テンポよくメリハリを利かせた語り口、巧みな間の取り方、生き生きした表情とオーバー気味の身ぶりが連続大爆笑を誘いました。

## ◆「みなりん」へしゃきょんも登場

「このあと港区と港区社会福祉協議会のマスコットキャラクター「みなりん」へしゃきょんが登場し、それぞれの活動内容を愛嬌たっぷりに紹介。港区オリジナル食品「ひまわりクッキー」、福丸さんの著書『怒られ力』、繁栄商店街提供、ヘア食事券などを景品にした抽選会が、福丸さんも加わって賑やかに行なわれました。

最後に再び住職が登場。「これからも十回二十回と、ここの床が抜けるくらいまで続けていきたいと思います。港区のまち起こしのため、力を合わせましょう」と再度呼びかけました。

## ◆「幸せな気分になれた」と参加者

落語に大笑いし、抽選会でも景品が当たって大喜びしていた藤田美和子さん(六七)市岡在住は「三回目の参加です。福丸さんは話方だけでなく、表情や身ぶりもメリハリがあつて

「みなりん」による港区の催し案内④や、「くしやきょん」による港区社会福祉協議会の活動案内⑤も行なわれ、子供たちを喜ばせた



分かります。本当に上手。これからも続けてほしいですね」。

チラシを見て初めて参加した江川広志さん(三九)奥野正美市議の事務所の事務局長は「本当に楽しく、幸せな気分になりました。子供たちがよく笑っていたのが印象的でした。ずっと続いてほしい催しです」。

最前列で友だちと一緒に笑いまくっていた女兒(磯路小三年)は「友だちのお母さんに連れて来てもらいました。三回目です。福丸さんは、顔の表情や、立ったり座ったりするところが、とても面白かったです」と話していました。



## 平和のため

# 戦争体験

## 語り継ごう

### 今月の語り部

さかもと きょうこ

坂本 京子さん(八二)磯路在住 ⑤

幼いまで 昭和七年港区千代見町に生まれた私は中国から太平洋へと戦火拡大する中で小学校生活を送り、集団疎開も体験。大阪大空襲に遭つても家族は無事だった。大分県へ疎開し、勤労奉仕に明け暮れる中、母が他界。すぐに終戦。混乱期に父はだまされ一文無しに。大阪で再出発を図るもジェーン台風など苦難は続いた。

## 戦後苦難乗り越えて

犠牲者想い、心豊かな社会願う

やがて父は、台風で水禍に遭つたその土地を

売るなどしてお金を作り、元の千代見町の土地に店舗兼住居を建てました。そして、それ以後は、父を中心に八人が力を合わせ、昼も夜も、盆も正月も働き続け、戦後の好景気にも乗って順調に家族生活が続けることができました。

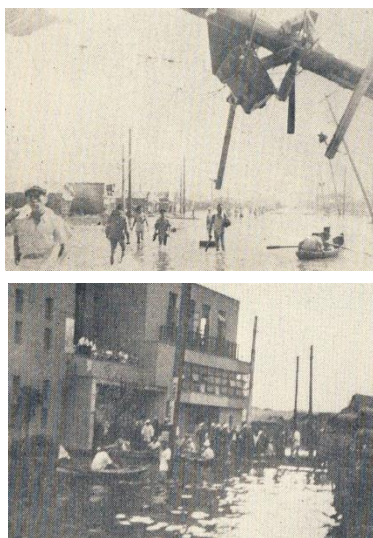
母親のいない家庭で、長女の私は毎朝五時に起き、店の掃除や庭の掃除、ガラス拭きなどをして父を支え、朝食の用意や弁当づくりをして弟妹を送り出すなど、寝る間もなく働きました。妹たちの授業参観に出たこともありました。

そんな中、成績優秀だった上の妹が中学卒業を控え、担任の先生が「上の学校へ行かせてあげてはどうか」と相談に来られた時、経済的にまだ余裕のなかった父が涙を吞むように断っていたのが、未だに辛い思い出として心に焼き付いています。

### ◆結婚 出産 夫の死

そうして昭和三十三年(一九五八)年、私は十六歳で見合い結婚しました。相手は大阪市宮地下鉄に勤務する地方公務員。私たちは、父が西区江戸堀に建ててくれた新居で新婚生活を始めることができました。昭和四十三(一九六八)年

←戦後の港区にさらに打撃を与えたジェーン台風による水害(昭和二十五年九月三日)。上は千舟橋付近、下は港区役所前での救助活動



六月十八日には長男を出産。その長男は成長して会社員になり、現在は自分で事業を営み、子供が一人います。

夫は平成二十四(二〇一二)年、八十六歳で他界しました。晩年は認知症の症状が出て、最後の一年半ほどは自宅で私が介護し、息子もよく手伝ってくれました。私はベッドで世話している時に蹴られた後遺症で、今も足と腰が痛みます。最後は肺炎を併発して救急車で多根病院に運ばれ、物も言えない夫を長男夫婦と二人で「がんばれ」と励ましましたが、その晩 息を

引き取りました。五十四年間連れ添い、苦楽を共にしただけに、しばらくはぼーっとして何も手につきませんでした。

### ◆ボランティア活動の日々

その夫が一生懸命働いてくれたお陰で、私は家事と子育て、それに様々なボランティア活動に力を注ぐことができました。その一つが、三十代後半に始めた「悩みの相談」でした。色々な人生問題を抱えた人たちの話を聴いてアドバイスをしてあげるといつ活動で、自殺志望、家出、不登校、受験失敗などに悩む人たちの窮地を救うことができました。難しい仕事で、辛いことや悲しいこともありましたが、とても充実した時間だったと振り返っています。

高齢になつてからは老人クラブや医療生協やボランティアグループの活動にも参加し、「ふれあい喫茶」のお世話や話し相手の活動もしています。また、拙い短歌を投稿するのも最後の楽しみの一つになっています。

### ◆よい人生をいこうだー

思い返せば、終戦から間もない昭和二十二年九四七年の暮、母をトヘン、戦争に負け、九

州で家も財産も失つて大阪へ帰ったものの、元の家も焼けてなくなり、母の里で親子六人これからどうやって生きて行くかと思ひ迷っていたある日、一人で神社へお参りに行く途中の芝居小屋から、そのころ流行っていた『星の流れに』が流れてきました。「♪星の流れに 身を占つて どこをねぐらの きょうの宿」。思わず立ち止まつて菊池章子さんの哀げな歌声に耳を傾けているうち「どん底の私がここに立っている」との思いが体じゅうに溢れて涙がこぼれ、その思いを振り切るように急ぎ足でそこを離れたーそんなことがありました。

我ながら、そうした辛い歳月を乗り越え、よくぞここまで生きてこれたものだと思ひつづいています。

### ◆戦争は絶対にはいけないー

そんな八十余年の人生を振り返つて一番強く脳裏に浮かぶのは、やはり戦争中のことです。そして「戦争は絶対にはいけないー」と強く思います。国民みんながみじめになり、勝つても負けても何一丁良いことはありません。

その上で声を大に言いたいのは、今の平

和は大変ありがたけれど、今の社会の在り方は、人間の根性をかえつて弱く、悪くしているのではないかといいています。我が我がの競い合いばかりで、戦前・戦中のような助け合いがなくなり、その中でまたぞろ職や家のない人がたくさん生まれています。言葉づかひも悪くなり、学校へ行けない子や煙草を吸う子がどんどん増え、子が親を、親が子を粗末に扱う傾向も強まっています。政治の世界でも足の引っ張り合いに明け暮れ、意見の違いで仲間割れを繰り返し、みんなで力を合わせようという姿勢がまるでありません。「これが平和ということか」「こんな世の中にするためにたくさんの人たちが死んでいったのか」と情けなくなります。

戦後失われたものを私たちはもう一度見つめ直し、平和で心豊かな社会に向かって国民一人ひとりが力を合わせなければ、あの戦争で犠牲になった多くの人たちに申し訳が立たないのではないかと心に言いきかせると共に、あの小学校時代の集団疎開生活で学んだ「和する」ということを生涯忘れることなく、日々成長して参りたいと願ひ毎日です。

(いお)

## ミニ文化案内

### ●港図書館 ①図書展示「こどものほんだな」

展Ⅱ昨年出版されたこどもの本の中から図書館おすすめの本を展示。子どもだけでなく大人も楽しめる本も。八月三十一日(日)まで開催中②夏のごともかいⅡ人形劇やパネルシアターなど。七月二十八日(土)十時半～十一時半に港区民センター階会議室<sup>たちばな</sup>「橋」で。申込不要、先着四十名③夏休み工作教室「身近なモノを使った楽器づくり」Ⅱ八月一日(金)十時～十二時に港区民センター一階会議室「松竹」で。小学生以上が対象。定員五十名。来館または電話で受け付け中④おたのしみ会Ⅱ毎週水曜日十五時半～十六時、じゅつたんコーナーで。幼児を対象に、絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアター、手遊びなど。申込不要⑤あかちゃんのおたのしみ会Ⅱ毎月第二金曜日(八月は一日)の十一時～十二時半、じゅつたんコーナーで。赤ちゃんと保護者を対象に、赤ちゃんが絵本に親しめるよう工夫。申込不要▽☎八五七六・一三四六。

### ●関西フィルハーモニー管弦楽団『Meet the Classic Vol. 29』同楽団

の首席指揮者・藤岡幸夫<sup>さちお</sup>さんがクラシック&オーケストラのライブ感を伝える人気シリーズの二十九回目。ブラームスの「由園」&小川理子の「ラプソディ・イン・ブルー」と題して二部構成で贈る。第一部「小川理子とのエキサイティングなステージ」ではアンダーソン・舞踏会の美女、ガッシュイン・ラプソディ・イン・ブルー(ジャズピアノ独奏・小川理子さん)を、第一部「ブラームスの「由園」」ではブラームス：交響曲第2番「長調作品73」を演奏。指揮&お話は藤岡幸夫さん。八月八日(金)十九時からいずみホール(JR大阪環状線「大阪城公園」駅から徒歩三分、同「京橋」駅南口から歩八分、地下鉄長堀鶴見緑地線「大阪ビジネスパーク」駅から歩



→指揮を担当する関西フィル首席指揮者・藤岡幸夫さん(©SHIN YAMAGISHI)

第一部でジャズピアノの独奏を担当する小川理子さん



五分で。一階席四千元、一階席三千元、学生席(十八歳以下、一階席のみ)二千元(全席指定・消費税込)。無料託児サービスあり(先着三十名、申込締切七月二十五日)。<sup>〆</sup>八五七七・二三八一。

●<sup>オーケ</sup>弁天町ORC2000生涯学習センター「アイリッシュバンドがやってくる」オーケストラ・ア・ア・ア・最高のケルトバンド「フィンシア」が様々な楽器を使ってユニークな演奏を披露。いきいきとした伝統的なアイルランド地方のダンスや音楽が楽しめる。八月十八日(土)十四時開演。入場料千円(前売八百円)。先着百名。<sup>〆</sup>八五七七・一四二〇。

●<sup>オーケ</sup>弁天町ORC2000生涯学習センター「弁天町おやこふれあい夏まつり」親子で気軽に楽



しめる体験教室が一杯。①親子でゆかた体験②青空みかんの紙芝居だよ〜全盲集合〜③タイルに不思議色☆あそび④花あそび⑤押し花小物&デコパージュ⑥古代の仕事 縄文ミサンガと弥生コースター⑦変身キラキラマスク(仮面造り)⑧ふしぎな童笛に挑戦⑨顔っておもしろい! 楽しい似顔絵あそび⑩バルーンアートを楽しもう⑪万華鏡のくりくり自殻や木の実を入れてみよう⑫おあこぎ元気になる! 笑いヨガなど。八月二十四日(日)十時半〜十八時。一部有料(二〇〇〜八〇〇円)。開催時間などは教室ごとに異なる。☎六五七七・一四二〇。

### ●弁天町ORC200生涯学習センター「オークもOH笑ひ塾」

「喜劇はチームワークとコミニケーションやで」舞台の上で思い切りはじ

けよう!」と放送作家・砂川一茂さんがやさしく楽しく指導。演目は好評のおばけシリーズ『幽霊食堂はテンヤワンヤでおおさわぎ』。

稽古日は①八月(日)②三日(日)③十七日(日)④三十日(土)⑤三十一日(日)⑥九月七日(日)。

①〜④は十時半〜十二時、⑤は十時〜十六時でリハーサルと発表、⑥は梅田で十時〜十

五時。参加無料。先着三十名。対象は小中学生だが大人の参加も歓迎。☎六五七七・一四二〇。

### ●弁天町ORC200生涯学習センター「オーク弁天寄席」

旧・弁天町民学習センター時代から長年親しまれた人気イベントの再開第三回、通算第三五回。七月二十三日(水)十九時〜二十時半に講堂で。出演は笑福亭學光さん(徳島出身の落語家、笑福亭鶴光門下)と旭堂南麟さん(大阪出身の講師、旭堂南校門下)をレギュラーに、今回は桂福丸さん(神戸市出身、港区市岡在住、桂福団治門下)、笑福亭枝鶴さん(大阪市福島区出身、笑福亭松鶴門下)も。先着百二十名。当日五百円、前売四百円。オー



→弁天町ORC200生涯学習センター「オー

ク弁天寄席」にレギュラー出演する落語家・笑福亭學光さん①と講師・旭堂南麟さん②

ク弁天寄席の会と同センターが主催、ORC200店舗会が協賛、ラジオ大阪が協力。☎六五七七・一四二〇。

### ●ガットネロ

市岡在住の社会派シャンソン歌手松浦由美子さん主宰の音楽喫茶。毎月様々な企画▽HAMORRI・BE(はもりべ)のうた★カフェ第十九回「若手テノールデュオ(中川公志さん・小原有貴さん)が日本の懐かしい歌を歌う。七月十八日(金)十一時と十五時(各六十分)。ピアノは福本由美さん。会費 千五百円(二飲物付・要予約)▽松浦由美子のシャンソン百物語第八十七回「松浦由美子さんの歌と藤田稔さんのピアノで」美輪明宏作品を歌うこの五回目。七月二十日(日)十五時から。会費 千円



→ガットネロを主宰する松浦由美子さん①と「うた☆カフェ」出演のHAMORRI・BE②

(一 飲物付) ▽クラシックカフェ第四十七回＝  
「ヴァイオリンとピアノで綴るクラシックの名  
曲」と題して吉天千鶴さんのヴァイオリンと吉  
野正江さんのピアノでモーツァルト、ベートー  
ヴェンなど。八月二日(金)十九時から。会費一  
千円(定員十五名、要予約)▽ガットネロは天王  
寺区上本町六・二・三七、地下鉄谷町九丁目駅  
⑪出口、☎六七六七・〇〇二。

●シネ・ヌーヴォ『誕生九〇年記念 一九四四年  
生まれの日本映画のミューズたち 淡島千景と  
羽信子 京マチ子 高峰秀子』 日本映画を輝か  
せた四女優が二〇一四年、誕生九十年を迎えた。

宝塚歌劇出身の淡島千景は持ち前の明るさと  
気さくさで天性の女優と謳われた。同じく宝塚  
出身の羽信子は『白牡丹のえくぼ』から演  
技派へと転身。大阪松竹歌劇団出身の京マチ  
子は『グランプリ女優』として日本女性の概念  
を変えた。子役から活躍した高峰秀子は数々の  
名作で戦後二ッポンを励ました。競いながら  
人々を楽しませ元気づけたミューズたちの作品  
群から二十八本を七月二十八日～八月二十九日  
に上映。淡島出演作品は『やっせんもつね』『修

←淡島千景が出演した『残菊物語』のポスター

①と、乙羽信子出演『銀心中』の一場面②



善寺物語』『残菊物語』『東京夜話』『河のほと  
り』『どんかつ一代』。乙羽出演作品は『愛  
事物語』『源氏物語』『銀心中』『愛妻記』  
『裸の島』『秋立ちぬ』『絞殺』。京出演作品  
は『痴人の愛』『瀧の白糸』『大仏開眼』『あ  
にじもつと』『地獄門』『大阪の女』『細雪』  
『黒蜥蜴』。高峰出演作品は『樋口一葉』『虹  
を抱く処女』『細雪』『浮雲』『へちまづけ』  
『渡り鳥いつ帰る』『鬼の棲む館』。当日一般  
千四百円。上映スケジュールなど詳細は同館西  
区九条一・二〇・二四、地下鉄九条駅⑥出口歩  
三分、☎六五八一・二四二六へ。

ひとくちPR

(一行＝税込二〇〇〇円)

●ボクササイズでシェイプアップ 女性も小中  
高生も楽しく練習。月会費八千円(無期限十枚綴  
りチケット八千円)。入会金二万円を〇今半額。  
練習日は月・水・金の十九時半～二十一時半。港  
ボクシングジムは三先一・三・九、朝潮橋駅  
南側の歩道橋すぐの裏通り、<http://meblo.jp/minatogym/>

読者プレゼント

※いずれもハガキに今月号の感想とプレゼント  
名を書いて二十日必着で港新聞へ。

●関西フィルミート・ザ・クラシック2019(三  
二文化案内)招待券をへア一組に。

●弁天町ORC200生涯学習センター『アイ  
リッシュバンドがやってくる』(三二文化案  
内)招待券をへア一組に。

●あながいおまる一座『被爆の証言』(演劇カ  
イド)招待券をへア一組に。

●桂福丸著『怒られ力』(三四頁「市岡寄席」出  
演の桂福丸さんのサイン入り)を一名様に。